

2025年3月期 第2四半期決算の概況



SBIインシュアランスグループ株式会社

証券コード：7326 2024年11月12日

連結業績	P. 3
セグメントごとの経営成績	P. 13
事業トピックス	P. 29
参考資料	P. 44

(免責事項)

- 本資料に掲載されている事項は、SBIインシュアランスグループ株式会社（以下「当社」）による当社グループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、日本国内外を問わず、いかなる投資勧誘またはそれに類する行為を目的としたものではありません。また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分について保証するものではありません。なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

(本資料中の表示)

- 資料内の社名等の表示に、次の略称を使用している箇所があります。

SBI損害保険株式会社・・・SBI損保

SBI生命保険株式会社・・・SBI生命

SBI少短保険ホールディングス株式会社・・・SBIH

SBIいきいき少額短期保険株式会社・・・SBIいきいき少短

SBI日本少額短期保険株式会社・・・SBI日本少短

SBIリスタ少額短期保険株式会社・・・SBIリスタ少短

SBIプリズム少額短期保険株式会社・・・SBIプリズム少短

SBI常口セーフティ少額短期保険株式会社・・・SBI常口セーフティ少短

SBIペット少額短期保険株式会社・・・SBIペット少短

連 結 業 績



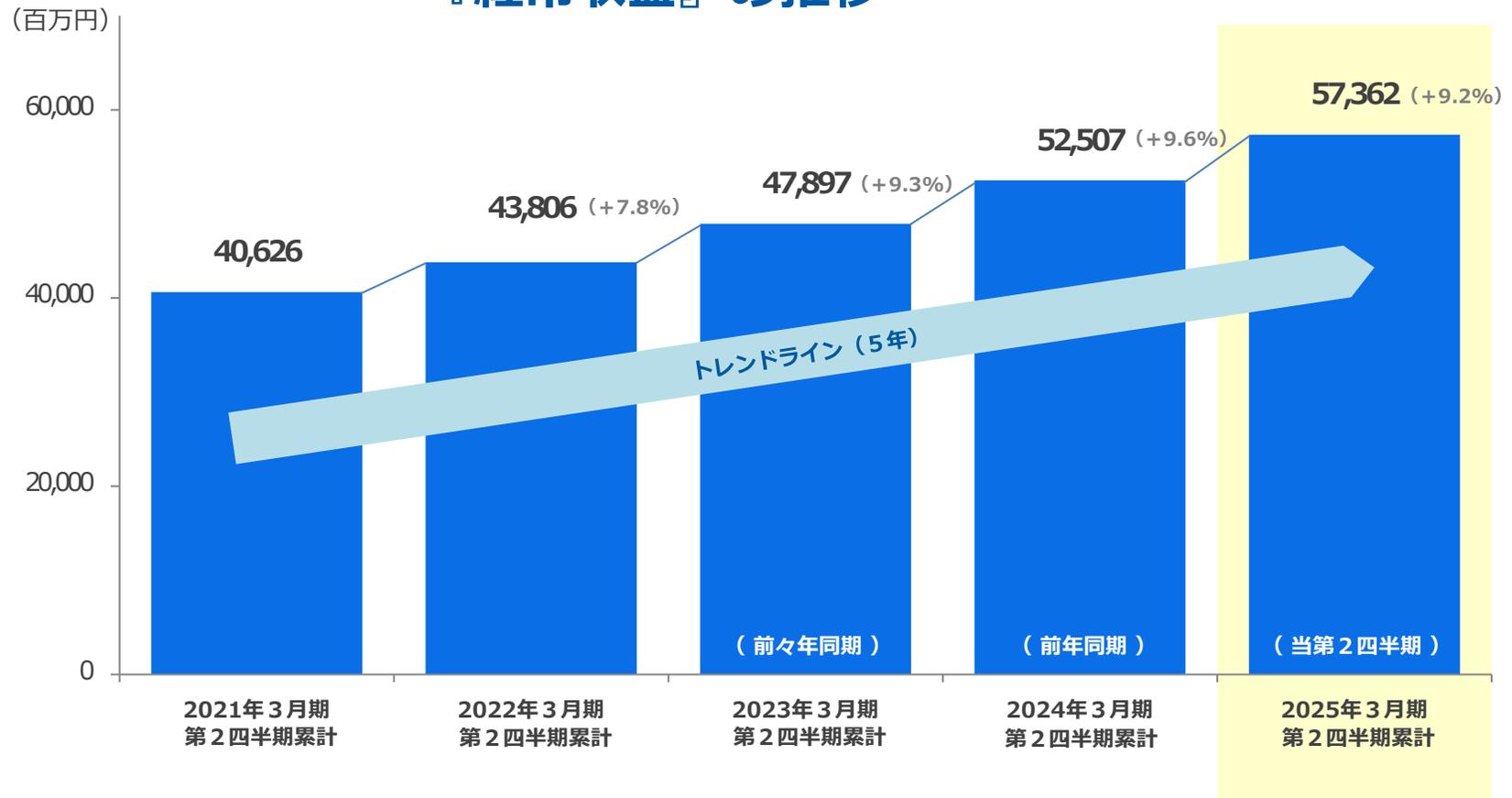
2025年3月期 第2四半期 連結業績

(単位：百万円)

	2024年3月期 第2四半期累計 (2023年4月～2023年9月)	2025年3月期 第2四半期累計 (2024年4月～2024年9月)	対前年同期 増減率
経常収益	52,507	57,362	9.2%
経常利益	4,851	4,867	0.3% ※
親会社株主に 帰属する 中間純利益	1,667	1,626	△2.5% ※

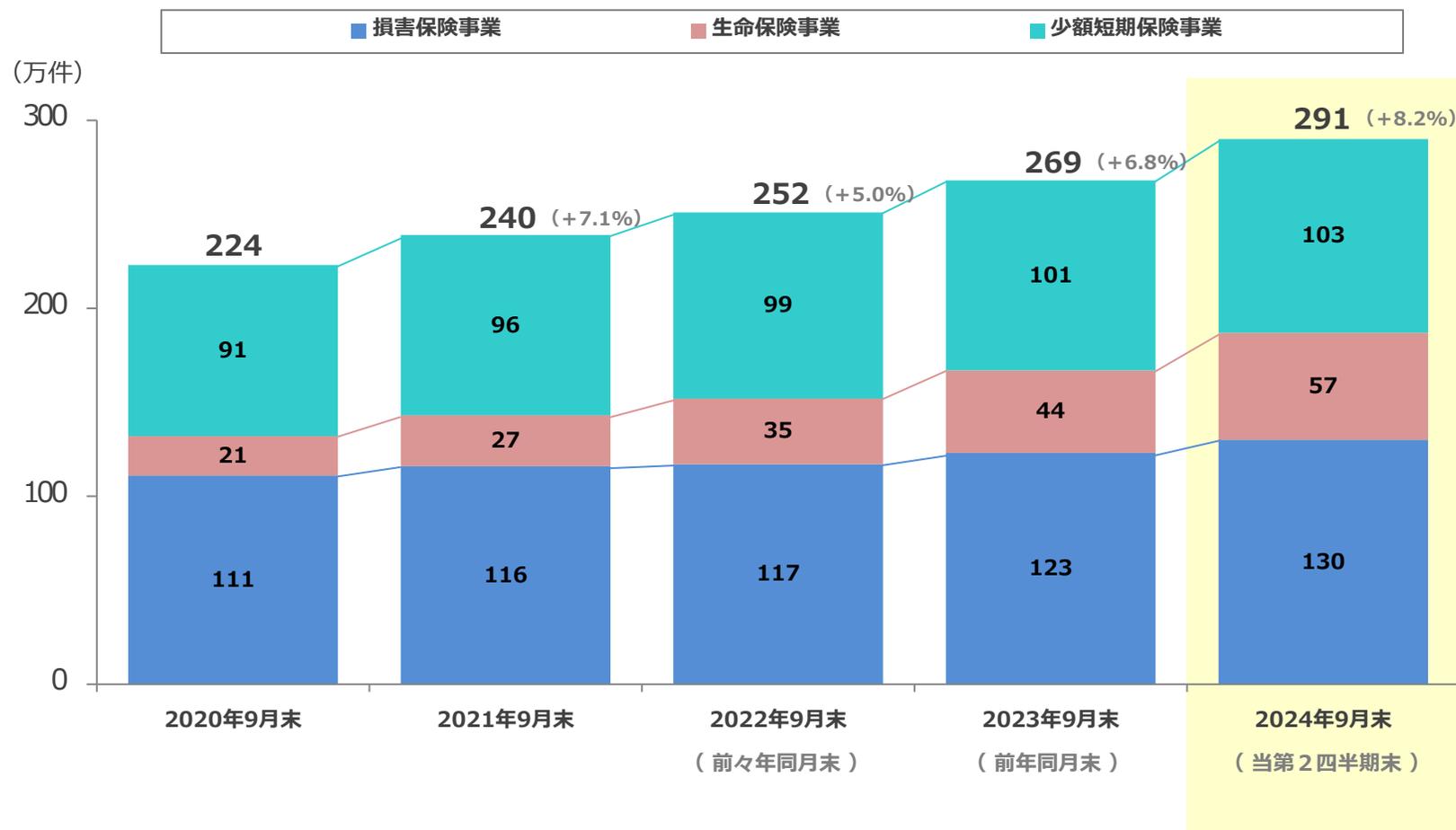
- ◆ 保有契約件数の堅調な増加が主な要因となり、経常収益は前年同期比 9.2%の増加
- ◆ 前年同期に一過性要因として計上した生命保険事業の責任準備金戻入額の影響などにより、経常利益は前年同期比0.3%の増加、親会社株主に帰属する中間純利益は同 2.5%の減少

第2四半期（4-9月期）における『経常収益』の推移



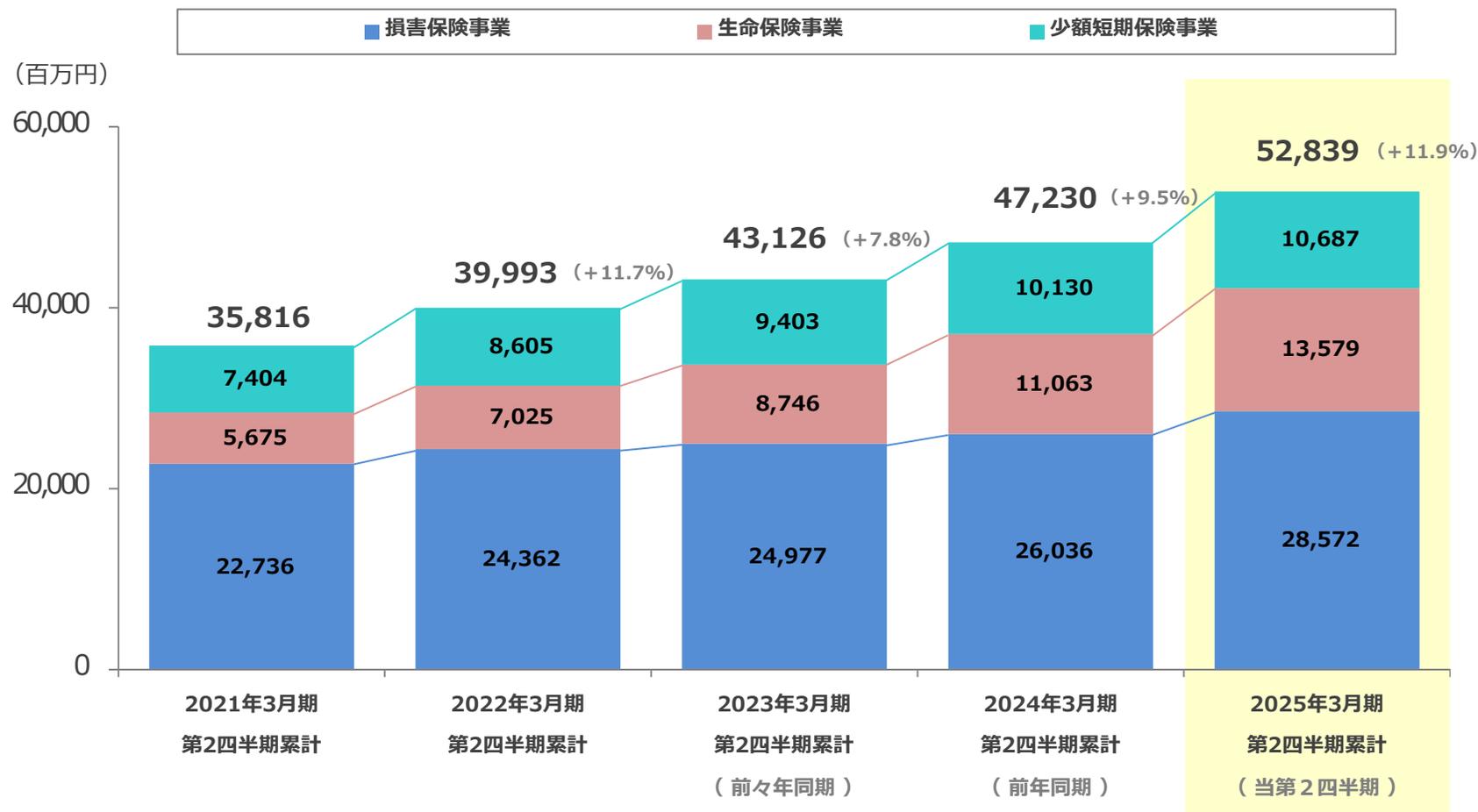
- ◆ 当第2四半期（6か月間）の経常収益は、57,362百万円。
保有契約件数の堅調な増加に伴う保険料の増収が主な要因となり、前年同期比 9.2%の増加

第2四半期末（9月末）における『保有契約件数』※の推移



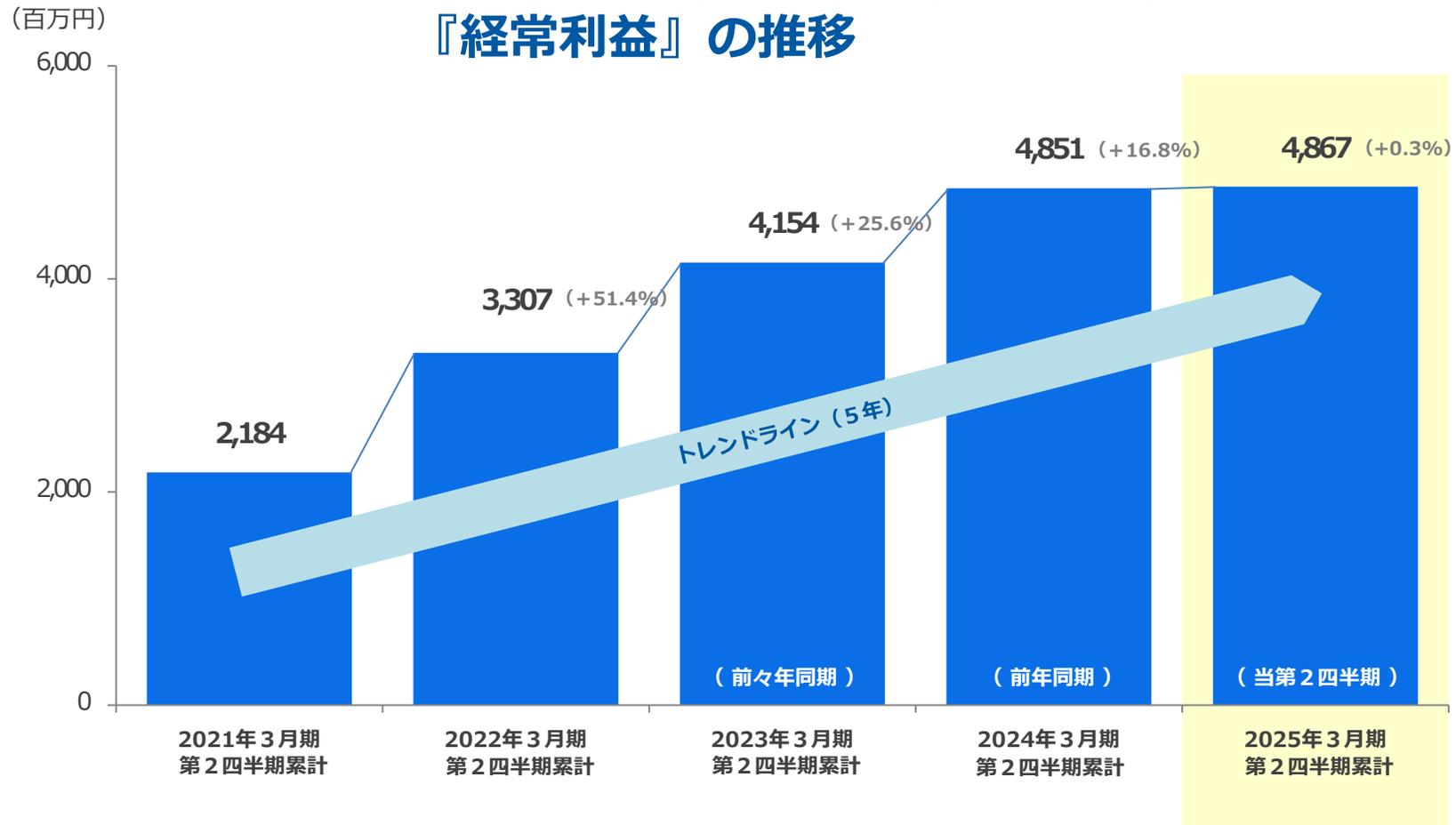
※損害保険事業の件数には、2022年6月末よりSBI損保の団体がん保険の被保険者数を、生命保険事業の件数には、SBI生命の団体信用生命保険の被保険者数を含めています。

第2四半期（4-9月期）における『収入保険料』※の推移



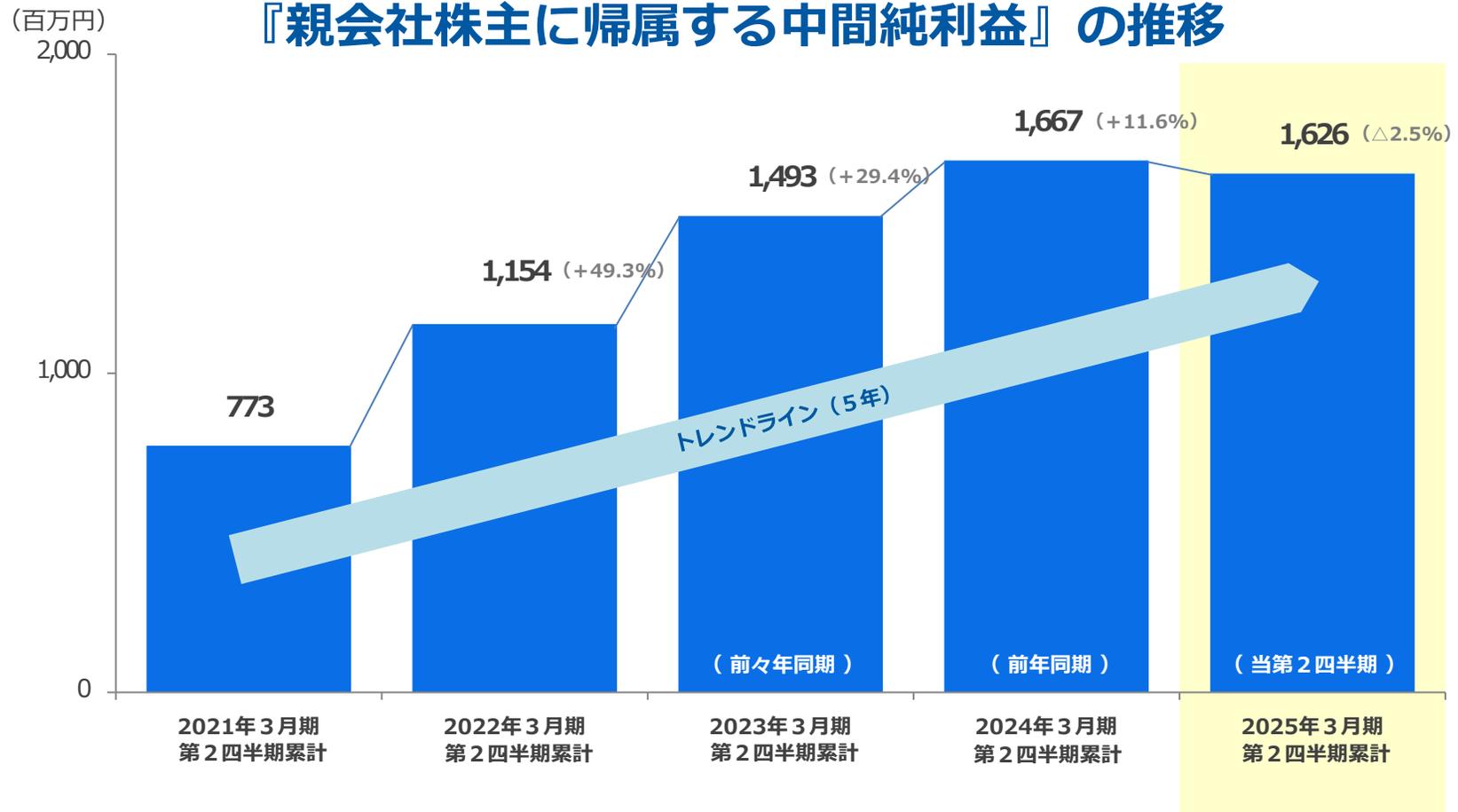
※損害保険事業は元受正味保険料の金額を、生命保険事業および少額短期保険事業は保険料収入の金額を合計して掲載しています。

第2四半期（4-9月期）における『経常利益』の推移



- ◆ 前年同期の一過性要因（医療保険の一部について実施した再保険の出再比率変更等）による責任準備金戻入額の影響により、当第2四半期の経常利益は前年同期比 0.3%の増加
- ◆ 足元の連結業績が概ね当初予定どおりに推移していること等から、当年度通期の経常利益は、当社の過去最高金額であった前年度通期の金額を 12.9%上回る連結業績予想（2024年5月9日公表）を据え置き

第2四半期（4-9月期）における『親会社株主に帰属する中間純利益』の推移



- ◆ 経常利益と同様の理由により、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比2.5%の減少
- ◆ 足元の連結業績が概ね当初予定どおりに推移していること等から、当年度通期の親会社株主に帰属する当期純利益は、当社の過去最高金額であった前年度通期の金額を24.1%上回る連結業績予想（2024年5月9日公表）を据え置き

当年度通期の連結業績予想（変更なし）

2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
116,000	6.1	9,300	12.9	1,800	24.1	72.52

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

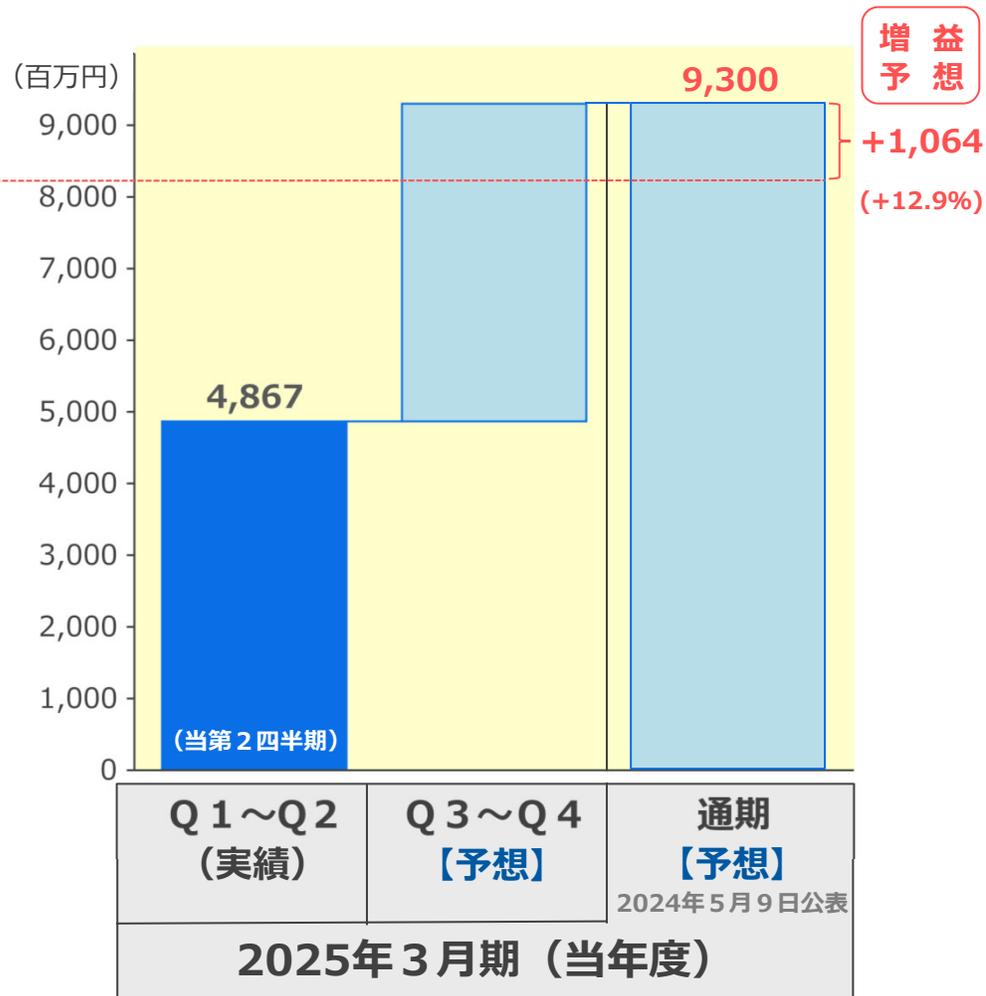
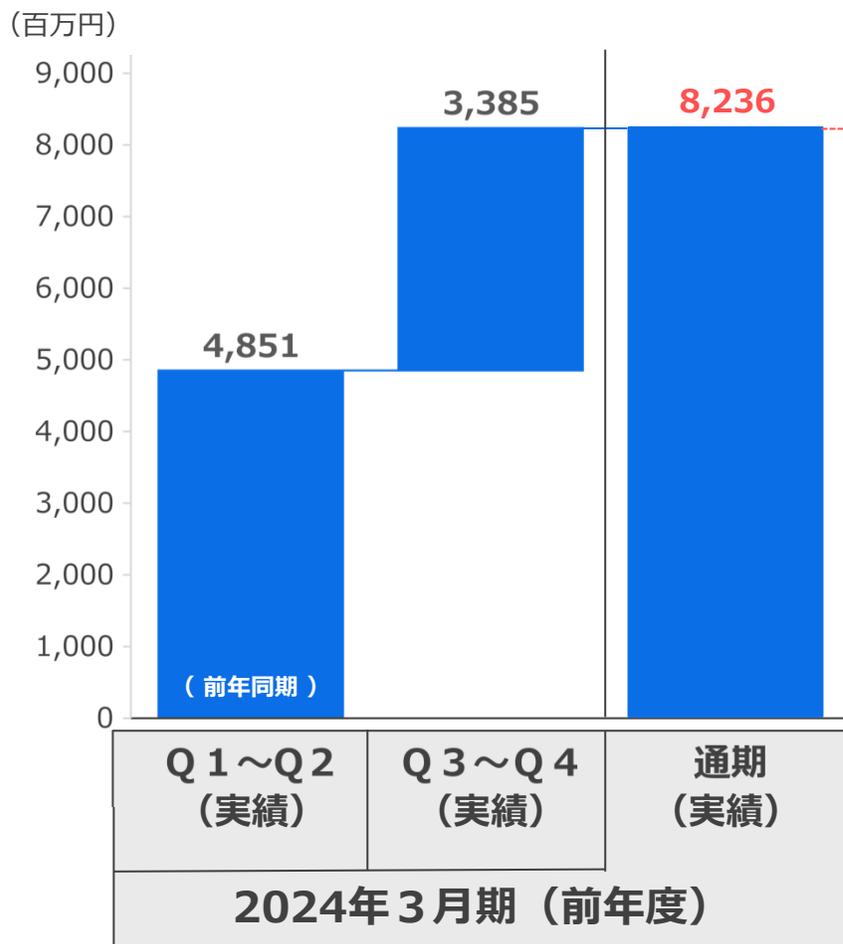
（当年度通期の生命保険事業のセグメント利益）

- ◆当第2四半期連結累計期間の生命保険事業のセグメント利益は前年同期を下回りましたが（後述）、一過性要因の影響を除いた保険収支の増加（前年同期比+607百万円）に加え、運用収支が増加（同+486百万円）するなど、足元の業容は順調に拡大しています。
- ◆また、保険業法施行規則 第69条第5項の規定に基づき積み立てた責任準備金（追加責任準備金）について、将来収支の改善が見込まれるため当年度末に一部取り崩しを想定していることから、当年度通期の同事業のセグメント利益は、前年度と同水準以上での着地を見込んでおります。

（当年度通期の連結業績予想）

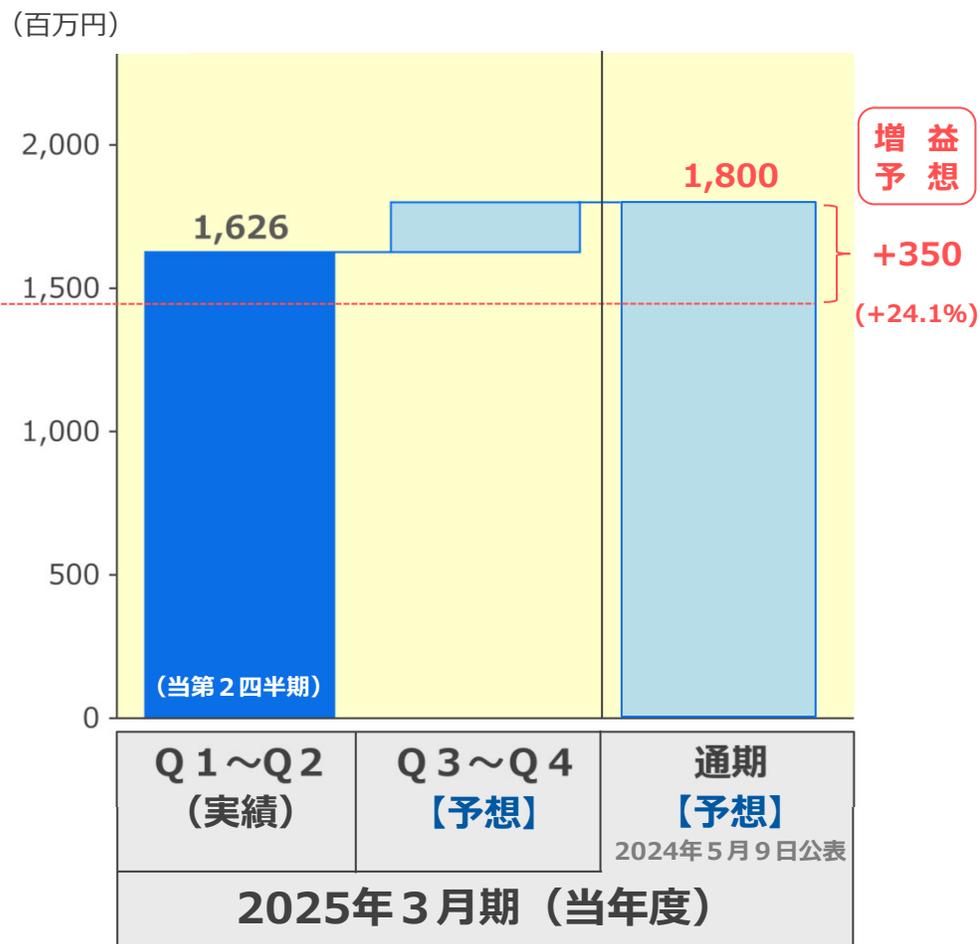
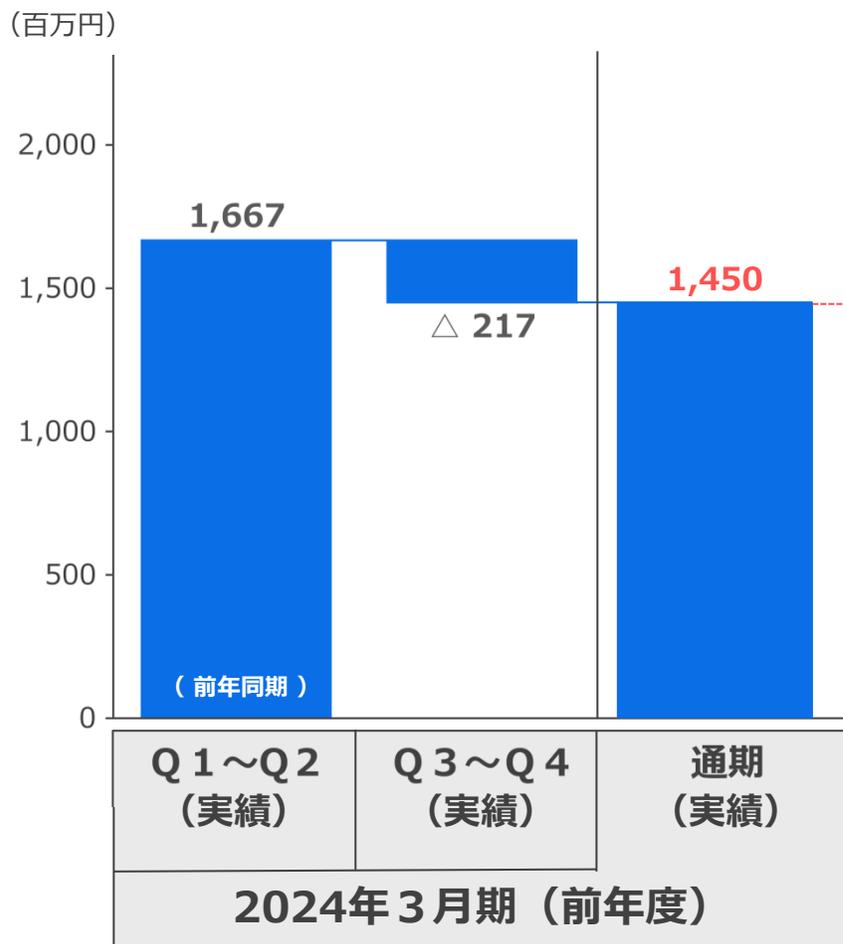
- ◆当年度通期の連結業績予想については、前述の責任準備金の取り崩しを含めて策定していることや、当第2四半期連結累計期間の連結業績が概ね当初予定どおりに推移していることから、2024年5月9日公表の「2024年3月期決算短信」に記載いたしました 2025年3月期の連結業績予想値に変更はありません。

当年度通期の利益予想『経常利益』（変更なし）



- ◆ 経常利益は、第2四半期の段階では、前年同期比で微増にとどまっているものの、業容の着実な拡大が持続。第3～第4四半期の増益により、通期で前年度を上回る水準での着地を見込む。

当年度通期の利益予想 『親会社株主に帰属する当期純利益』（変更なし）



- ◆ 親会社株主に帰属する中間純利益は、第2四半期の段階では前年同期の金額に届いていないものの、経常収益と同様、通期で前年度を上回る水準での着地を見込む。



セグメントごとの経営成績

経常収益（報告セグメント別）

（単位：百万円）

	2024年3月期 第2四半期累計 (2023年4月～2023年9月)		2025年3月期 第2四半期累計 (2024年4月～2024年9月)		対前年同期 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
損害保険事業	18,424	35.0%	20,150	35.0%	9.4%
生命保険事業	18,403	35.0%	20,776	36.2%	12.9%
少額短期保険事業	15,782	30.0%	16,540	28.8%	4.8%

- ◆ 経常収益は3事業ともに増加
- ◆ 報告セグメント別の構成比は、生命保険事業が1.2ポイントの上昇。少額短期保険事業が1.2ポイントの低下、損害保険事業は同率

セグメント利益

(親会社株主に帰属する中間純利益ベース)

(単位：百万円)

	2024年3月期 第2四半期累計 (2023年4月～2023年9月)		2025年3月期 第2四半期累計 (2024年4月～2024年9月)		対前年同期 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
損害保険事業	1,268	64.5%	1,428	73.4%	12.6%
生命保険事業	604	30.8%	343	17.7%	△43.2% ※
少額短期保険事業	92	4.7%	172	8.9%	87.6%

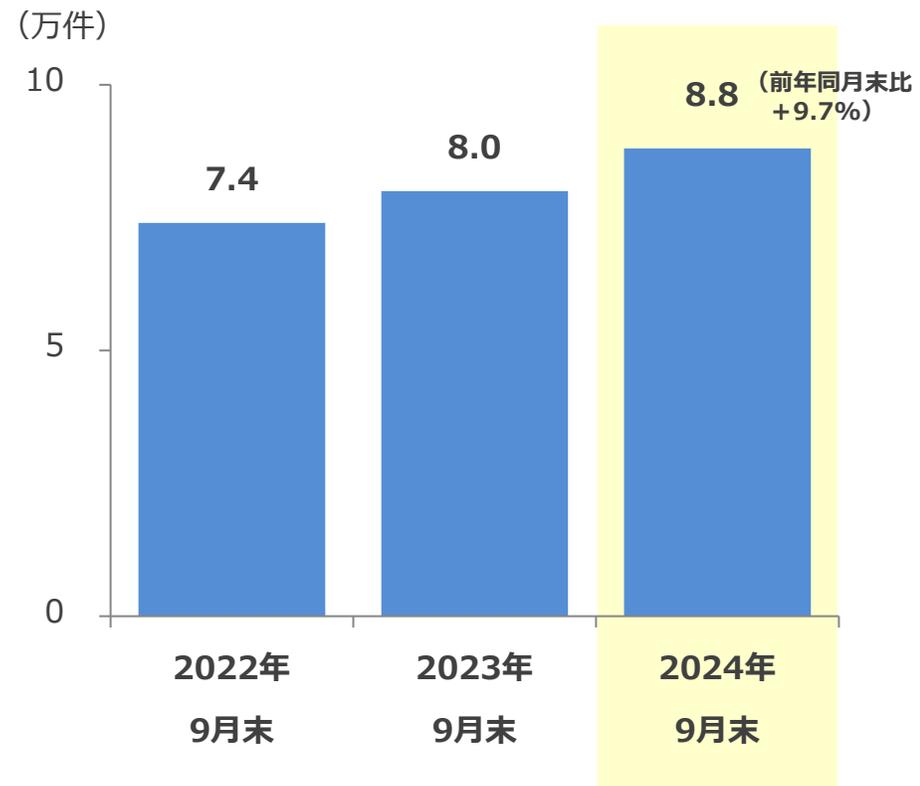
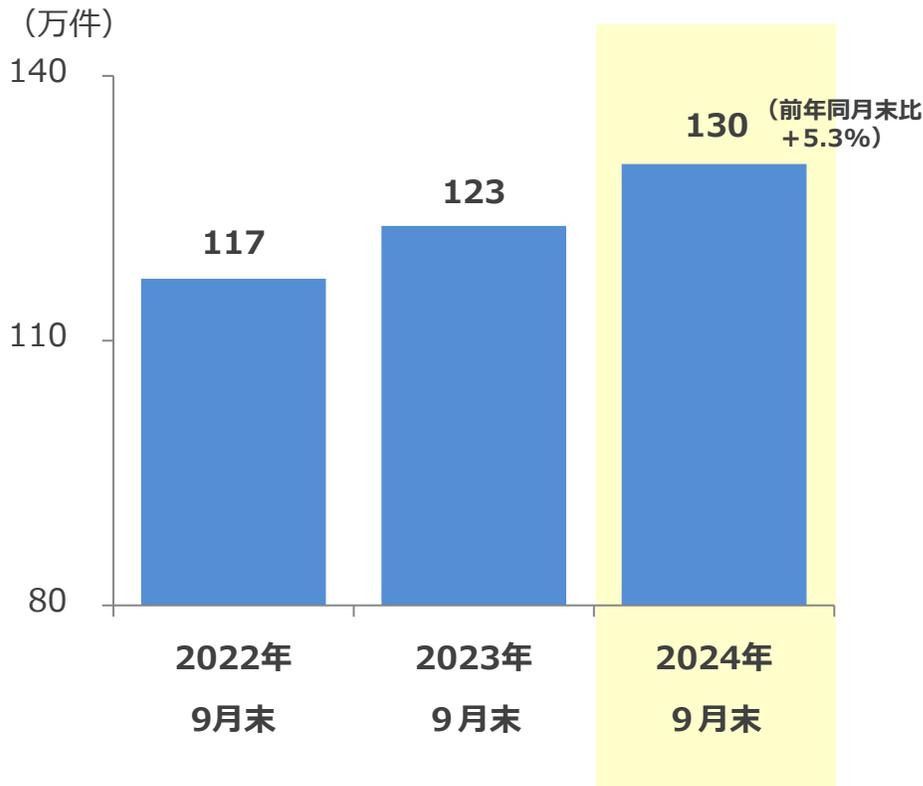
※ 生命保険事業のセグメント利益は、当第1四半期の対前年同期増減率（△66.4%）より改善したものの、前年同期の一過性要因（医療保険の一部について実施した再保険の出再比率変更等）による責任準備金の戻入（収益）が当第2四半期にはない影響などにより、前年同期比で減少



- ◆ 保有契約件数は、前年同月末比 5.3%の増加
- ◆ 実額補償型のがん保険は、同 9.7%の増加

保有契約件数（全種目）

保有契約件数（がん保険）

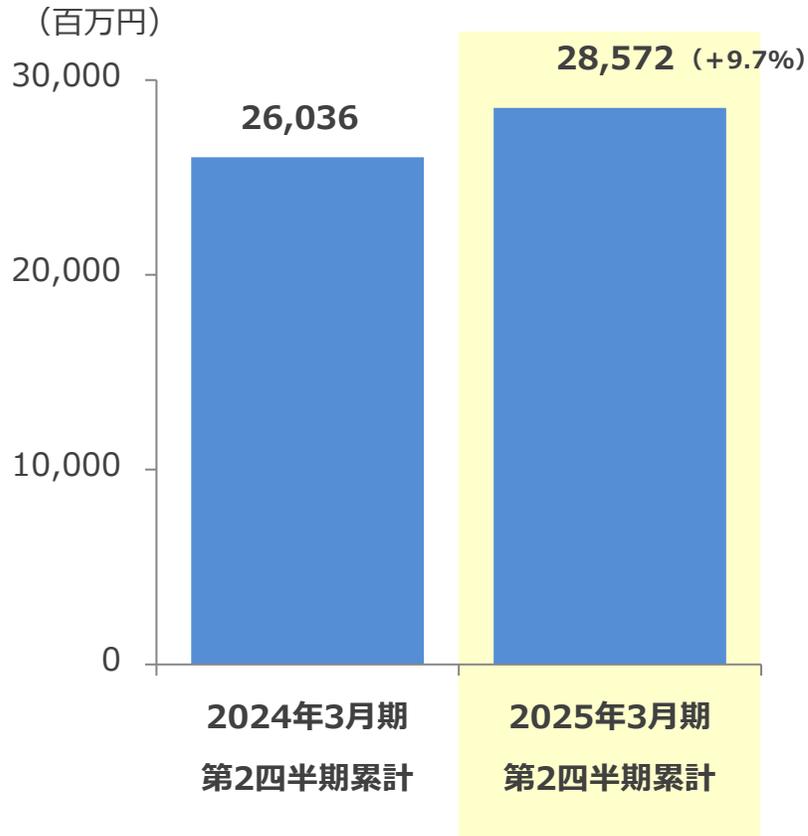


※がん保険の保有契約件数には、団体がん保険の被保険者数を含んでいます。

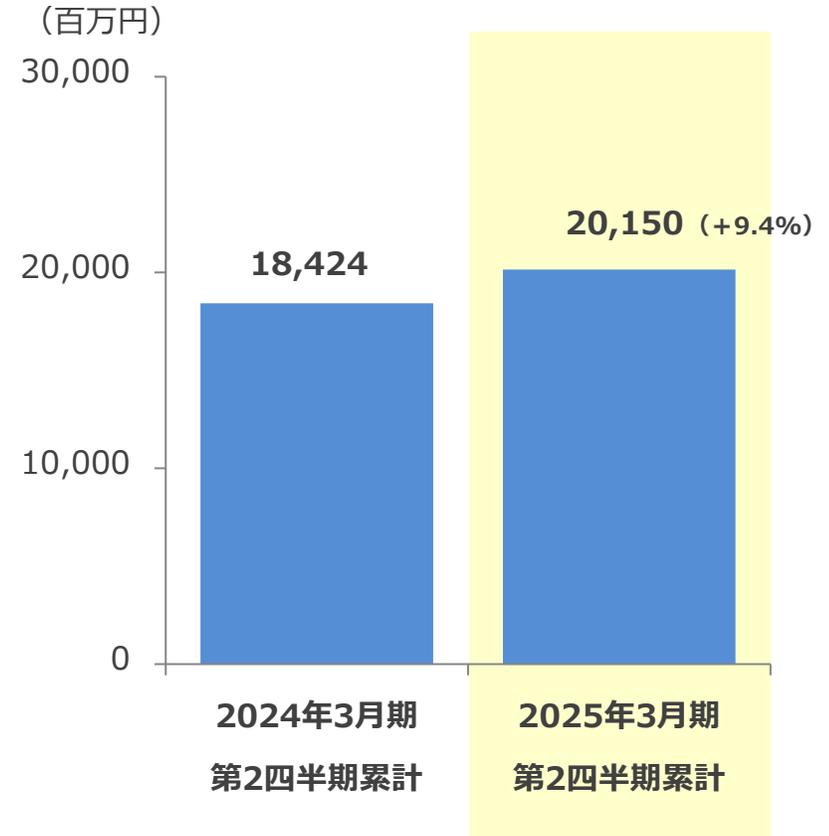
SBI GROUP **SBI損保**

- ◆ 元受正味保険料は、保有契約件数の堅調な増加などにより、前年同期比 9.7%の増加
- ◆ 経常収益は、保険料の増収により、同 9.4%の増加

元受正味保険料



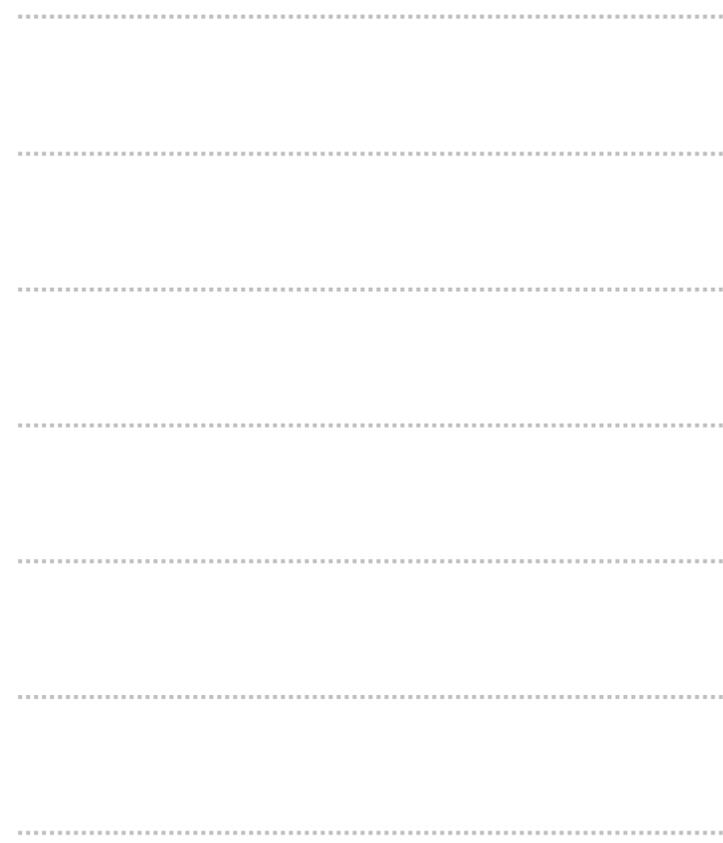
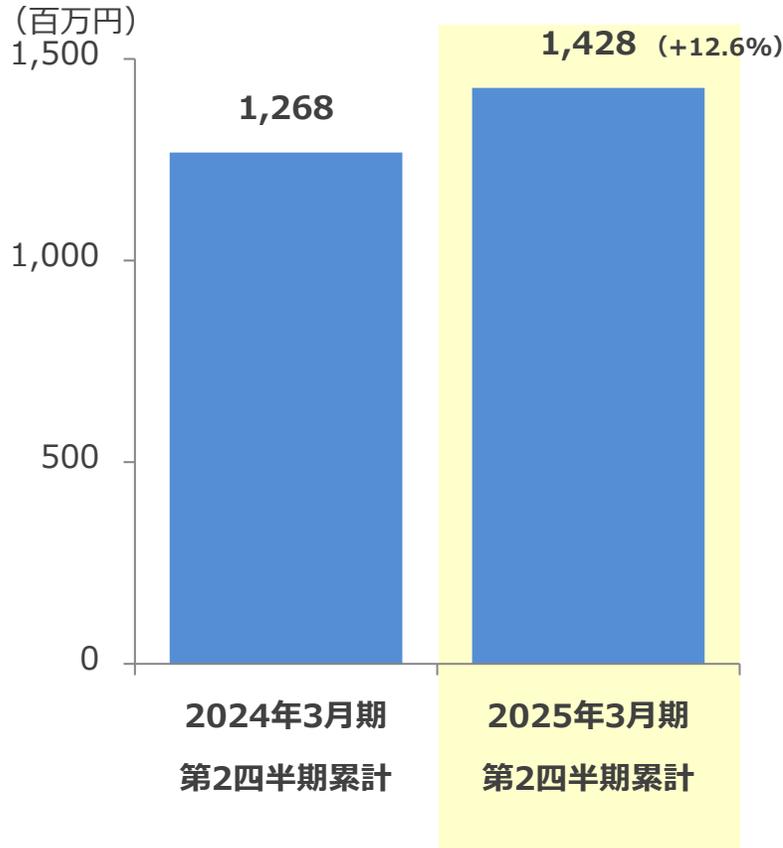
経常収益





◆ セグメント利益は、雹（ひょう）災による自動車保険の保険金支払いが発生しましたが、増収効果などにより、前年同期比 12.6%の増加

セグメント利益





SBI損保

- ◆ コンバインド・レシオは 2ポイント低下
- ◆ 総資産は増加。ソルベンシー・マージン比率は上昇

コンバインド・レシオ

(SBI損保単体)

(単位：%)

	2024年3月期 第2四半期累計 (2023年4月~2023年9月)	2025年3月期 第2四半期累計 (2024年4月~2024年9月)
正味損害率	72.9%	71.7%
正味事業費率	17.5%	16.7%
コンバインド・レシオ	90.4%	88.4%

その他の指標

(SBI損保単体)

(単位：百万円、%)

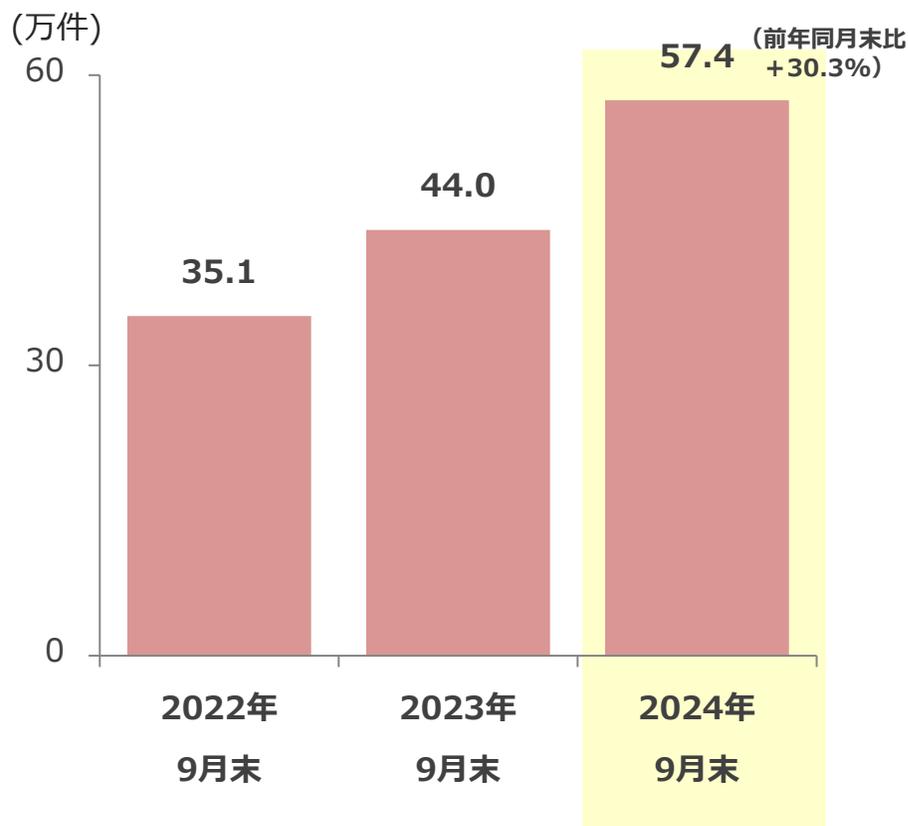
	2024年3月末	2024年9月末
総資産	62,529	64,268
単体ソルベンシー・マージン比率	534.3%	568.1% (※)

※掲載数値は速報値です。

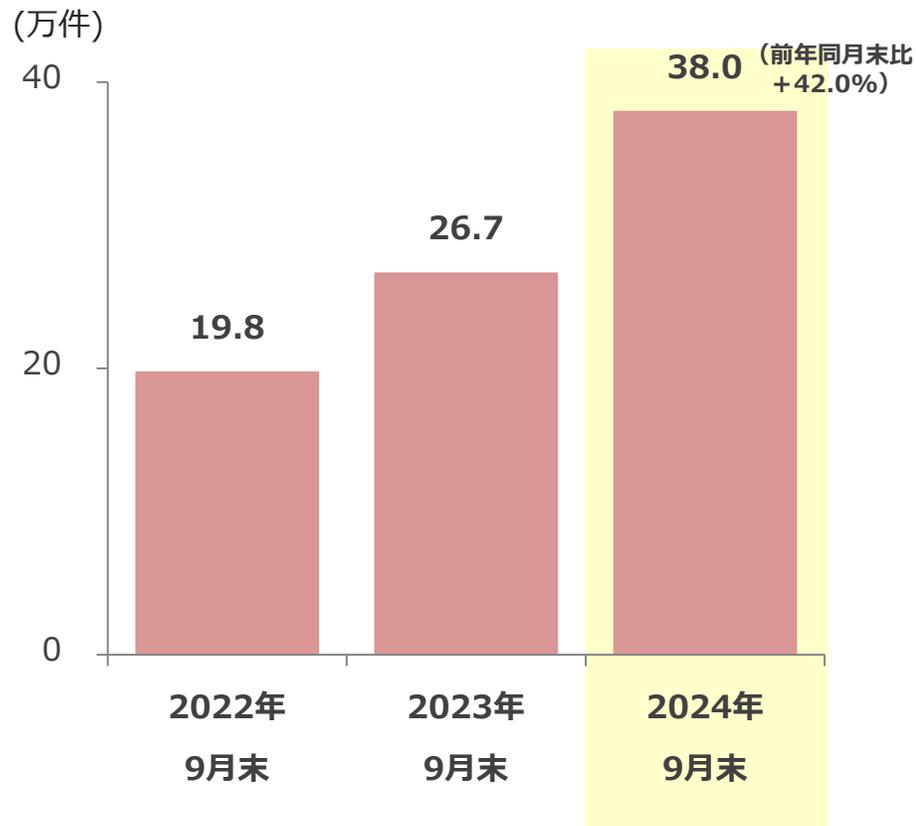


- ◆ 保有契約件数は、前年同月末比 30.3%の増加
- ◆ 団体信用生命保険（以下「団信」）の保有契約件数は、同 42.0%の大幅な増加

保有契約件数（全種目）



保有契約件数（団信）

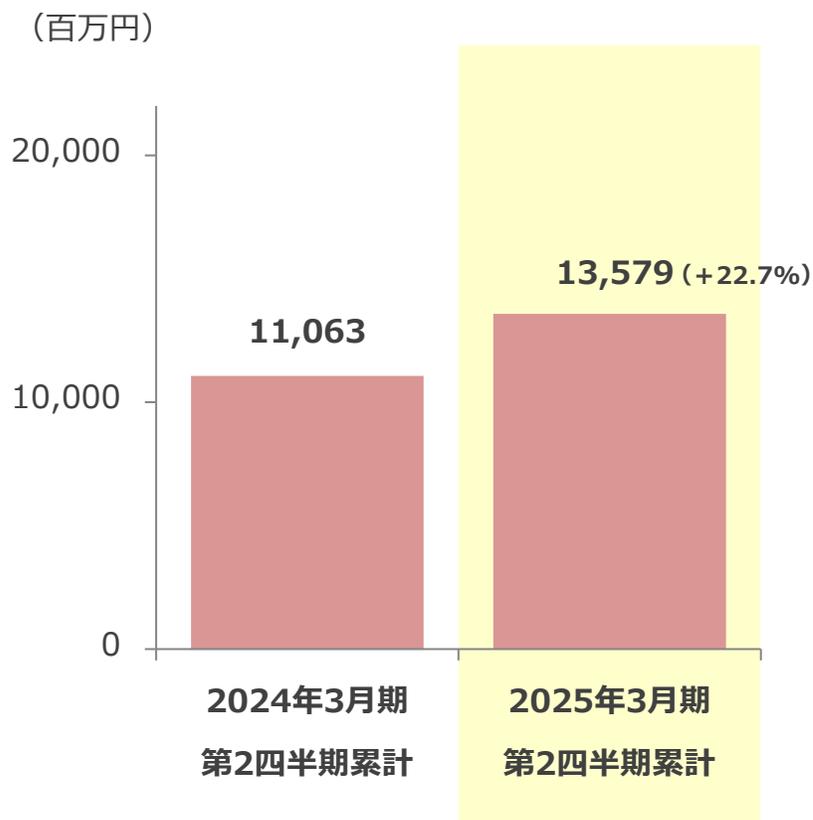


※団体信用生命保険については、被保険者数を保有契約件数として表示しています。

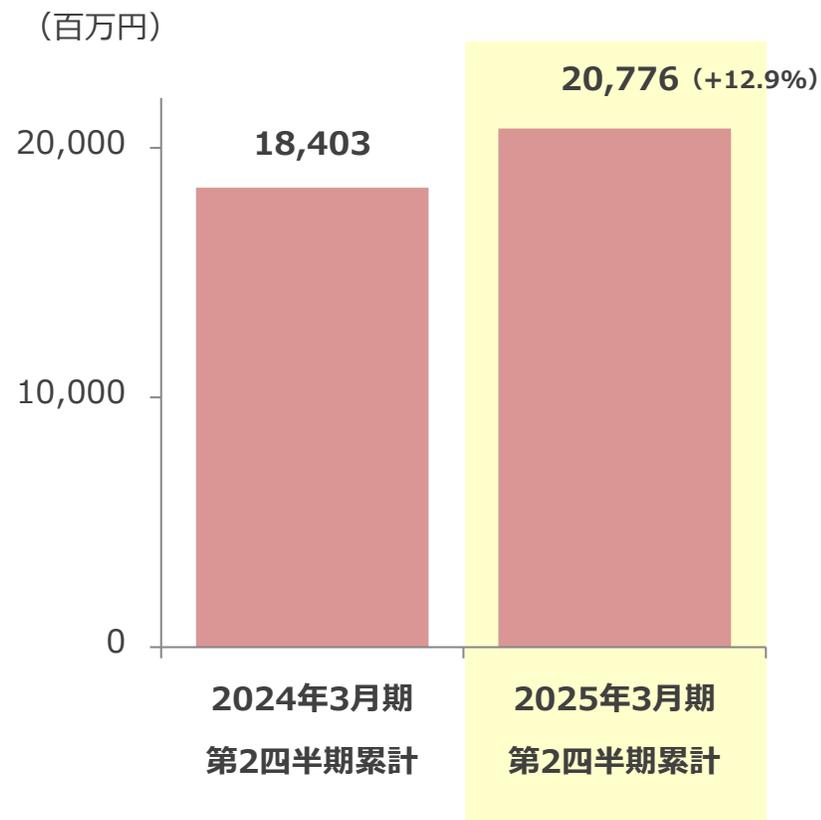


- ◆ 保険料収入は、保有契約件数の順調な増加により、前年同期比 22.7%の増加
- ◆ 経常収益は、同 12.9%の増加

保険料収入



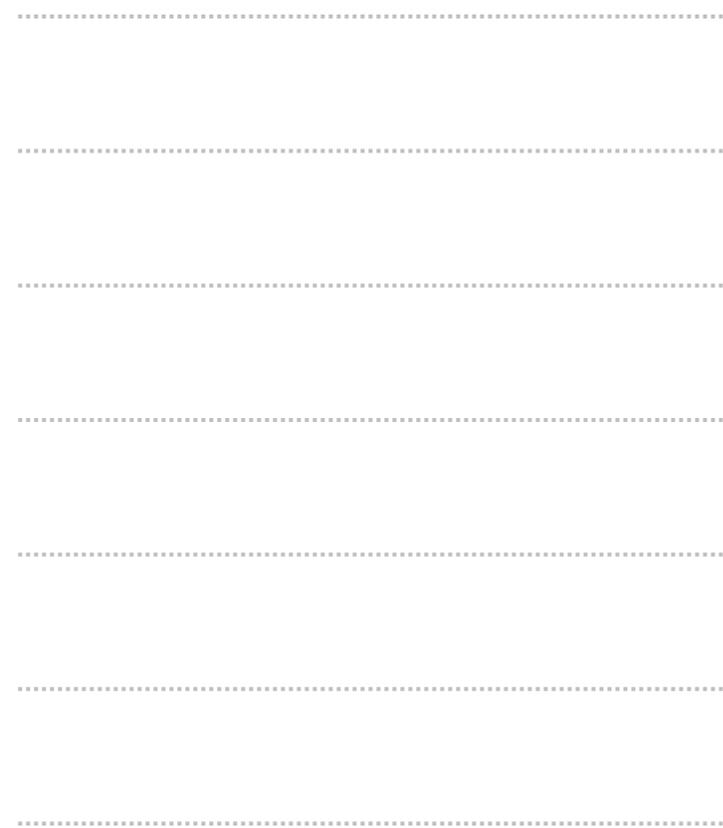
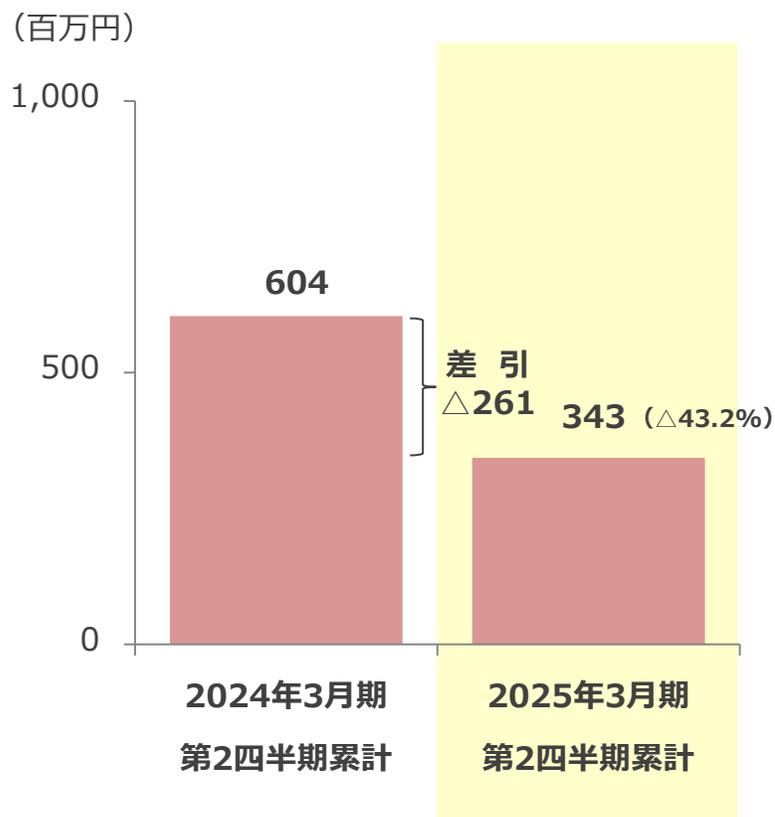
経常収益





◆ 過年度の一過性要因の影響により減益であるが、一過性要因の影響を除けば堅調（次ページでご説明）

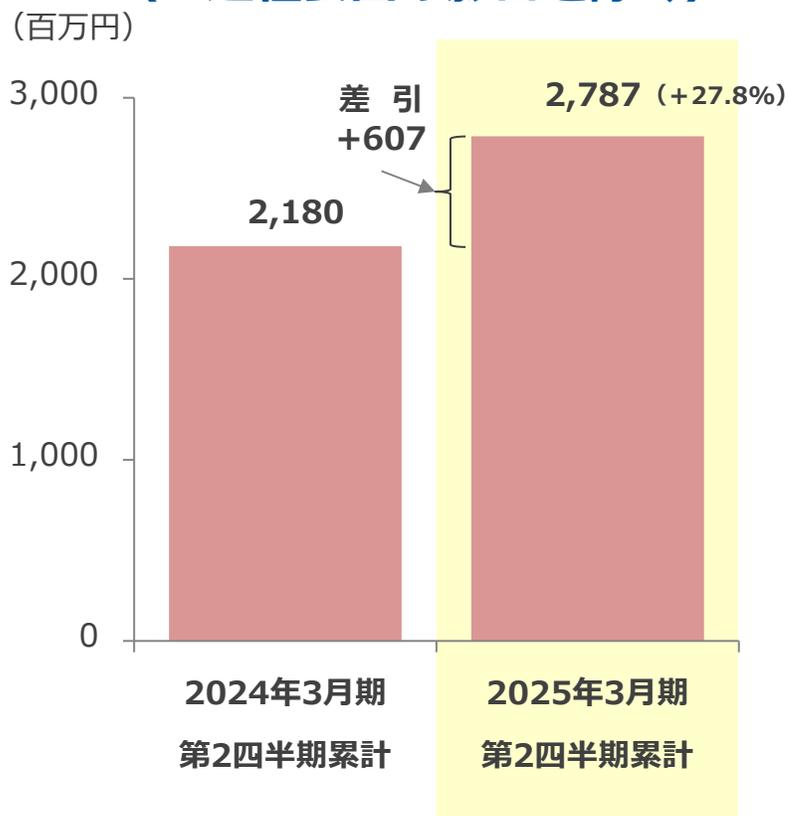
セグメント利益



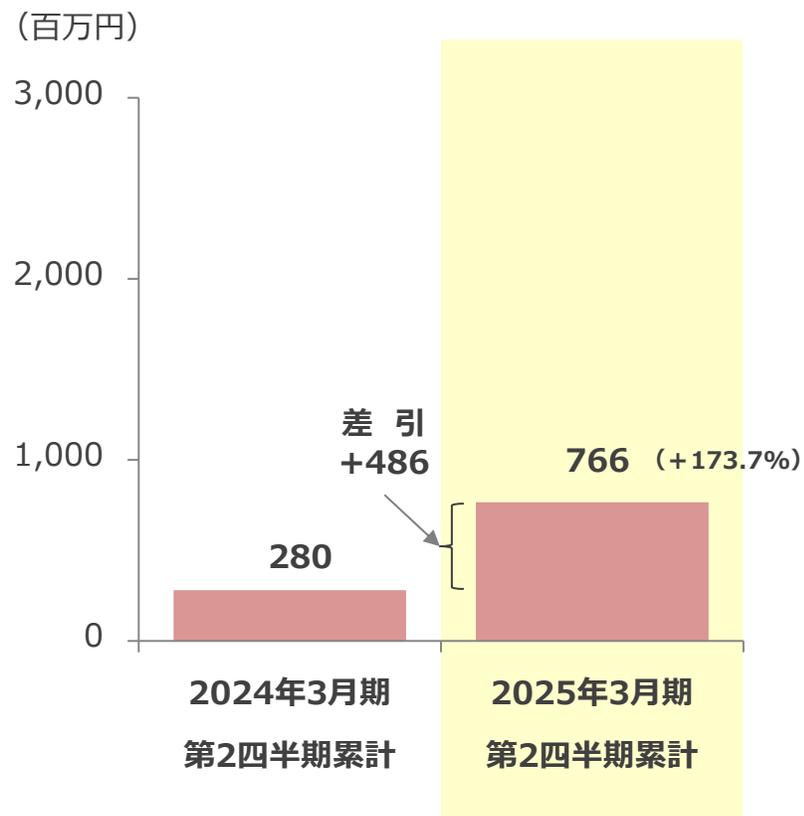


- ◆ 一過性要因の影響を除く保険収支は、前年同期比+607百万円と堅調に推移
- ◆ これに加え、運用収支も前年同期比+486百万円と堅調に推移

保険収支 (一過性要因の影響を除く)



運用収支

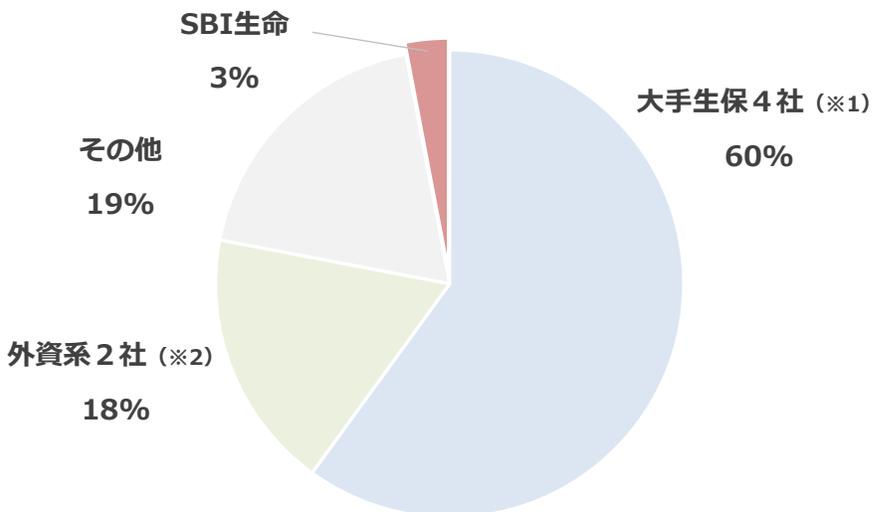




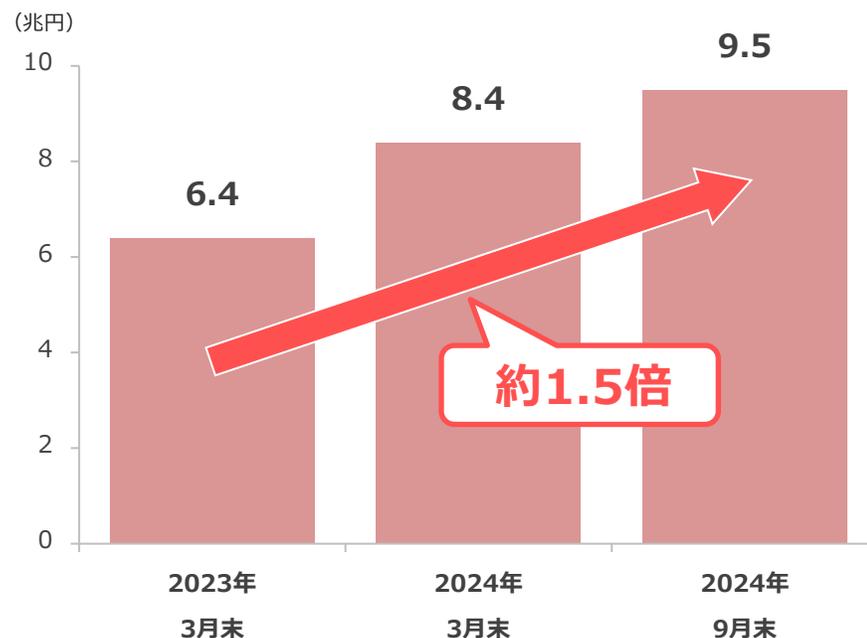
- ◆ S B I 生命の注力商品である団信は順調に増加
- ◆ 2023年3月末からの1年半で約1.5倍の高い成長

団体信用生命保険保有契約高 (当社調べ)

2023年3月末
215.5兆円



S B I 生命の団信保有契約高



- 2023年3月末の団信保有契約高は約215.5兆円、過去10年間で26.3%増加
- S B I 生命は2017年6月より団信の提供を開始。順調に保有契約高の増加が続く

※1 大手生保4社は次のとおり：日本生命保険相互会社、第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社、住友生命保険相互会社

※2 外資系2社は次のとおり：クレディ・アグリコル生命保険株式会社、カーディフ生命保険株式会社



- ◆ 総資産は前年度末と同水準
- ◆ ソルベンシー・マージン比率は上昇

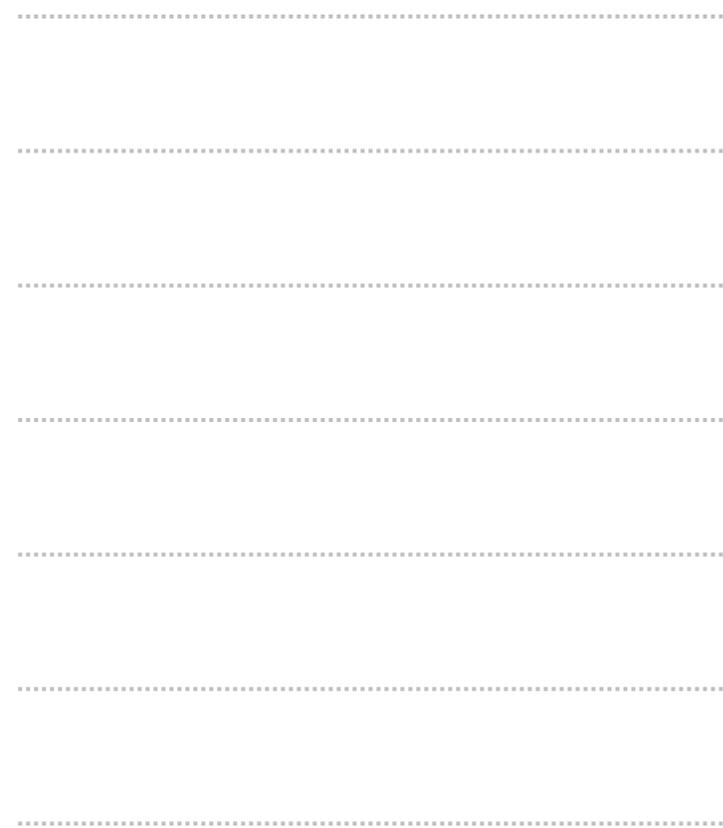
その他の指標

(SBI 生命単体)

(単位：百万円、%)

	2024年3月末	2024年9月末
総資産	133,823	133,210
単体ソルベンシー・マージン比率	828.8%	855.4% (※)

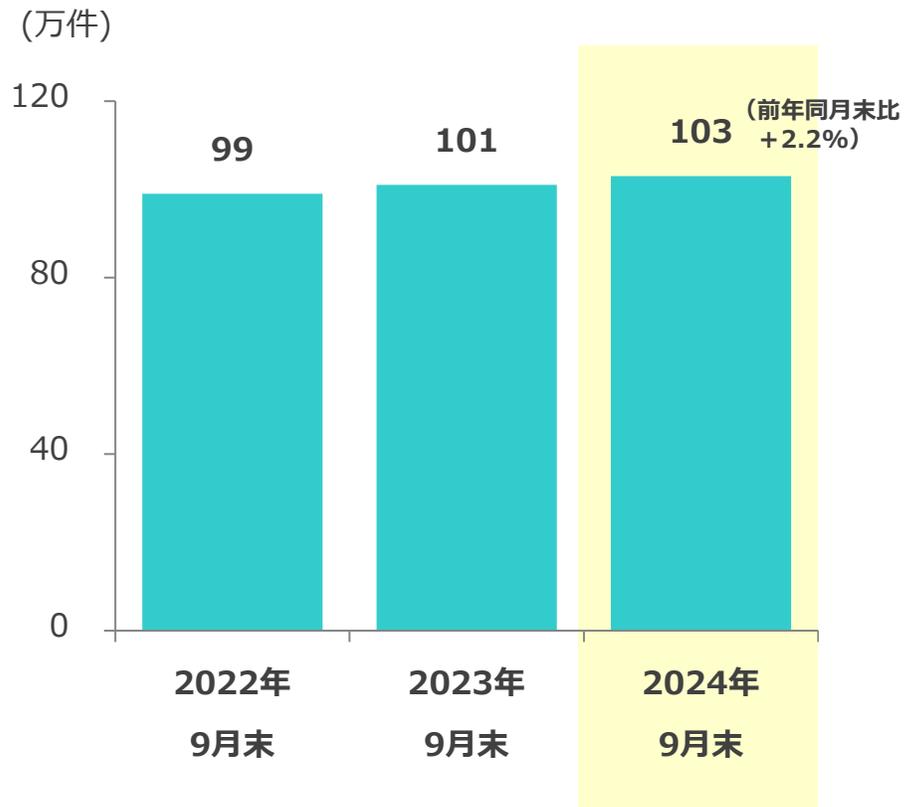
※掲載数値は速報値です。



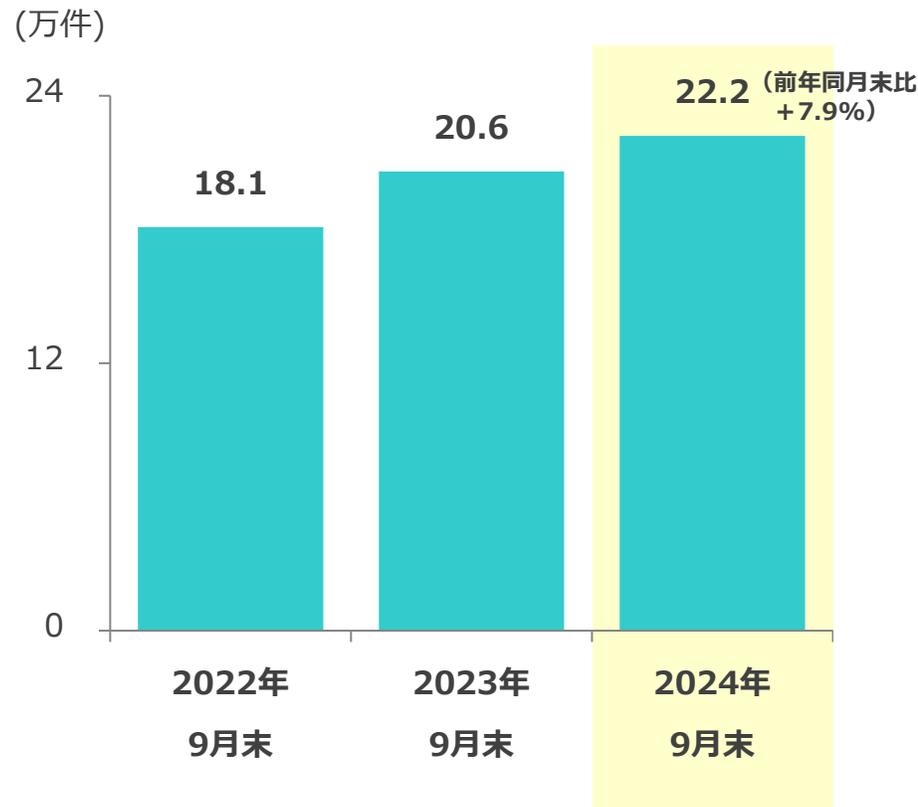


- ◆ 保有契約件数合計は、前年同月末比 2.2%の増加
- ◆ ペット保険は、同 7.9%の増加

保有契約件数（全種目）



保有契約件数（ペット保険）※

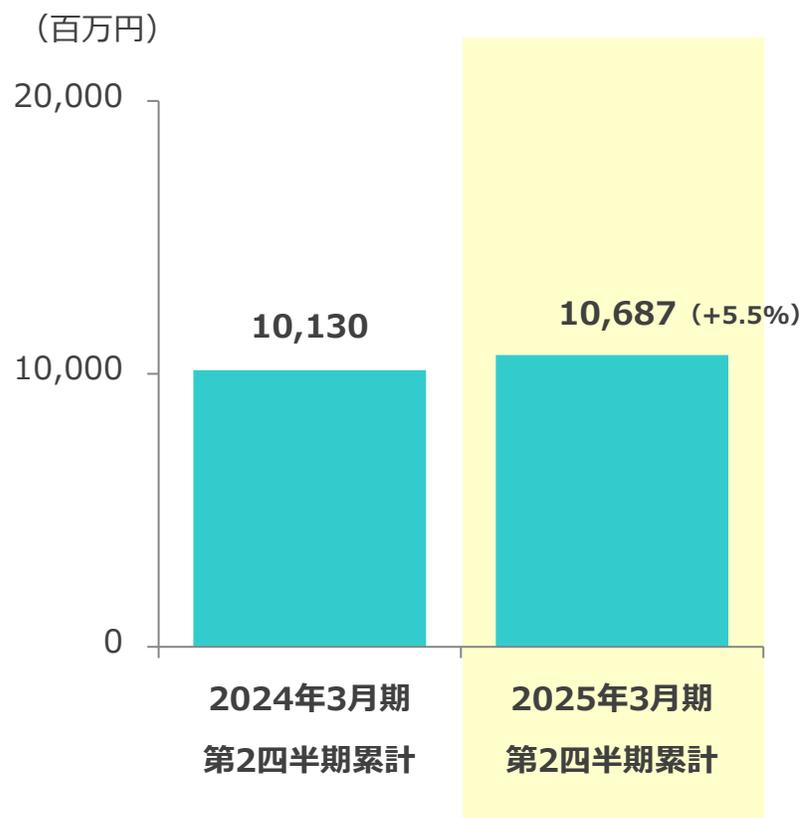


※ SBIいきいき少短とSBIプリズム少短が取り扱うペット保険の保有契約件数合計

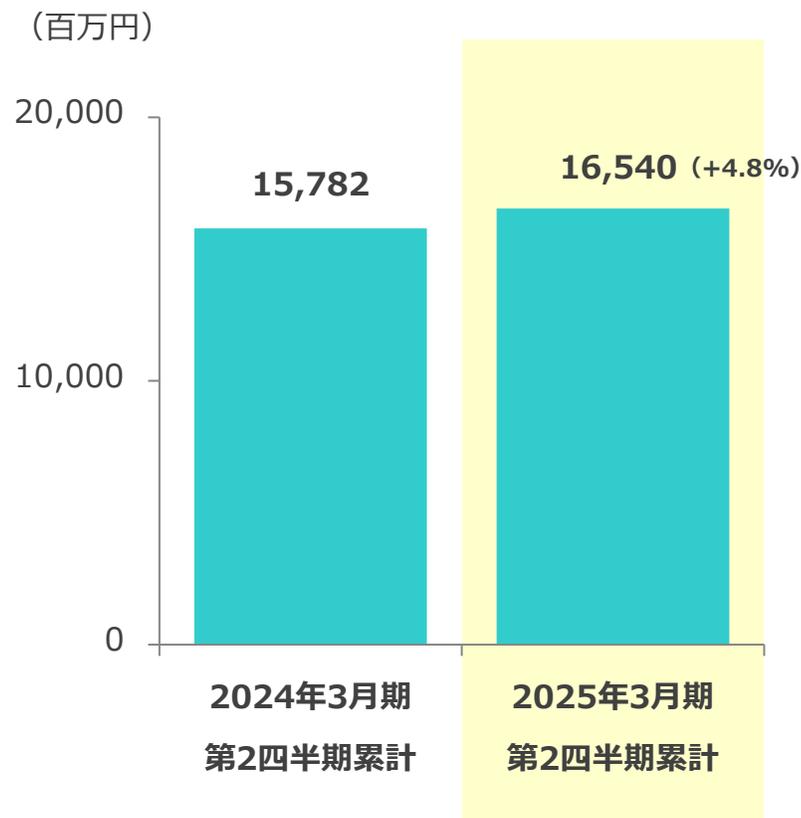


- ◆ 保険料収入は、保有契約件数の堅調な増加などにより、前年同期比 5.5%の増加
- ◆ 経常収益は、同 4.8%の増加

保険料収入



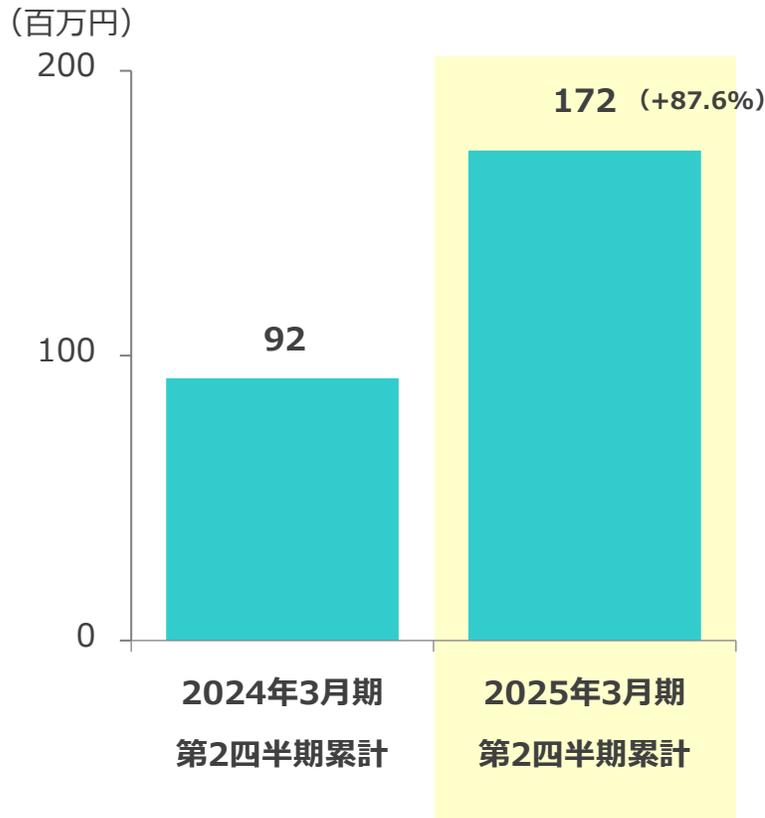
経常収益





◆ セグメント利益は、増収効果などにより、前年同期比 87.6%の増加

セグメント利益



※ 普通責任準備金は、決算日後の保険金等の支払義務を果たすために積み立てる責任準備金の一つであり、未経過保険料及び保険料積立金の合計額と初年度収支残を比較し、大きい方の金額を普通責任準備金として積み立てます。初年度収支残は、当期の収入保険料から、当該保険契約のために支出した保険金等及び当期の事業費を控除して算出されます。

事業トピックス



事業関連の主なニュースリリース（1/4） [2024年4月～9月期]

発表日	事業会社	表題
4/01	SBI日本少短	家賃債務保証サービスの株式会社エポスカードとの業務提携を開始
4/01	SBIいきいき少短	「シニア世代応援プロジェクト」の始動について
4/10	SBIプリズム少短	検索型FAQ「Helpfeel」導入のお知らせ
4/15	SBI損保	「乳がんの早期発見・早期診断・早期治療」の大切さを伝えるピンクリボン運動へ協賛
4/22	SBI日本少短	家賃債務保証サービスの株式会社いえらぶパートナーズとのシステム連携を開始
4/22	SBI損保	自動車保険の保険料支払において「青と黄色のVポイント」取り扱いを開始
4/25	SBIリスタ少短	株式会社アンジェ・21によるSBIリスタ少短の「結婚式総合補償保険」取扱い開始についてのお知らせ
5/09	SBIいきいき少短	京都信用金庫が提供するアプリ、ウェブサイトにおける「SBIいきいき少短のペット保険」取扱い開始のお知らせ
5/09	SBI生命	保有契約の加入者数が50万人を突破
5/13	SBI損保	仙台銀行における「介護保険」団体保険ご案内開始のお知らせ

事業関連の主なニュースリリース（2/4） [2024年4月～9月期]

発表日	事業会社	表題
5/15	SBI生命	このほけん！「Insurance of the Year 2024」就業不能保険部門にて「働く人のたより」が第1位を獲得
5/20	SBI損保	SBI AntWorks AsiaのRPAを活用したAPI連携により損害調査業務の効率化を実現
5/27	SBI損保	【損保業界初】自動車保険の法人契約者へ睡眠障害リスク計測サービス「Sleep Doc」の無償提供を開始
6/13	SBI生命	生成AIを活用した社内業務サービスをGPT-4o とClaude 3 Haiku へバージョンアップ
6/17	SBIいきいき少短	ペット保険の保険金支払査定にAIを導入し、自動査定を開始
6/24	SBI生命	ナビナビ保険「2024年版 ナビナビ保険グランプリ」就業不能保険部門にて「働く人のたより」が3年連続第1位を獲得
6/26	SBI損保	IDOMの修理工場へ透明性向上のための钣金工程確認システムを導入
7/16	SBI損保	雹（ひょう）災害による車体損害の確認へイオンモール姫路リバーシティーでのドライブイン方式を提供開始
7/16	SBI日本少短	家賃債務保証サービスのアーク株式会社との業務提携を開始
8/02	SBI損保	Copilot for Microsoft 365の社内活用を開始

事業関連の主なニュースリリース（3/4）【2024年4月～9月期】

発表日	事業会社	表題
8/05	SBIいきいき少短	保険市場『2024年版 最も選ばれた保険ランキング』ペット保険部門（ネット申込）において第1位を獲得
8/15	SBI生命	SBIアルヒと連携して 保険商品の販売を開始
8/22	SBI損保	【ダイレクト型損保初】輸入車メーカーの修理工数を収録した「Solera Qapter Claims オンライン見積りツール」の試験導入・検証を開始
8/26	SBIいきいき少短	“地震・防災”に関するアンケート調査（第13回）を実施
8/26	SBI損保	LINE公式アカウントをリニューアル
8/28	SBI損保	「教員の民間企業研修」を実施
9/05	SBI損保	HDIの認証プログラムで3年連続となる「五つ星認証」を取得

事業関連の主なニュースリリース（4/4） [2024年10月以降]

発表日	事業会社	表題
10/1	SBI損保	三井住友カード会員さま向け団体がん保険取扱開始のお知らせ
10/1	SBI日本少短	『みんなのe-bike保険』を取り扱い開始
10/7	SBI生命	音声文字起こしと生成AIを活用した自動要約アプリケーション「VOCSS（ボックス）」を開発
10/28	SBI生命	社内OA機器の予約・貸出・返却を完全自動化
10/29	SBI生命	「ドコモスマート保険ナビ」にて保険商品の販売を開始
11/01	SBI損保	アイオー信用金庫における「SBI損保の自動車保険」取り扱いに関する基本合意のお知らせ
11/01	SBI日本少短	アットホーム株式会社が提供する「スマート申込」とのシステム連携を開始
11/01	SBI日本少短	GLIONグループと協業し『GLION保険 バイクセーフガード』を販売開始



自動車修理工程の透明性向上のため、 「**钣金工程管理システム（BPS）**」を導入

- ◆株式会社IDOMと提携し、事故によりIDOMの修理工場へ入庫された自動車の修理内容や進捗状況をスマートフォン等で確認が可能に
- ◆お客さまは修理内容や修理の進捗状況をご自身で確認できるため、安心してサービスをご利用可能
- ◆SBI損保も同様の内容を確認できるため、スムーズなお客さま対応や修理内容の適切性の判断が可能に

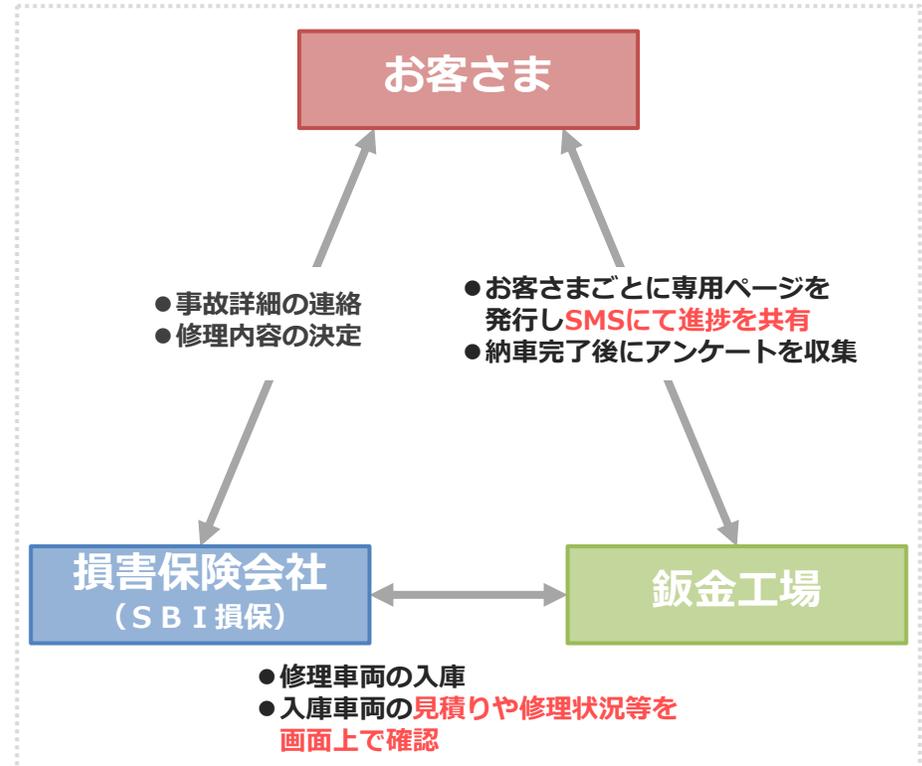


自動車修理工程の透明性向上のため、 「**钣金工程管理システム（BPS）**」を導入

<BPS (Bankin Process System) >

◆BPSとは、株式会社MIRAIが提供している工程確認システムです。「お客さま、修理工場、損害保険会社」の3者が、適切なタイミングで修理の工程を確認できます。

◆従前の「お客さま・修理工場」の2者間での利用を前提としたBPSをSBI損保と株式会社MIRAIが共同改変。「お客さま・修理工場・損害保険会社」の3者間の相互利用が実用化され、利便性が高まりました。



 **SBI損保**

さらに便利に。2024年4月22日より、
自動車保険の保険料支払いに「青と黄色の
Vポイント」のお取り扱いを開始

- ◆ 「SBI損保の自動車保険」に新規でご加入になるお客さまは、保険料の10%を上限に、1ポイント=1円分として、日本最大級^(※)の共通ポイントサービスである「青と黄色のVポイント」をご利用可能です。
- ◆ 「青と黄色のVポイント」は、CCCMKホールディングスが提供する「Tポイント」と三井住友カードが提供する「Vポイント」が統合して誕生した、新しい共通ポイントです。



×

**SBI損保の
自動車保険**

保険料のお支払いにVポイントが使える



3月1日より「**団体信用介護保障保険**」を
SBI新生銀行の住宅ローン利用者向けに提供開始
既に介護団信にご加入の住宅ローン利用者も含めて
介護団信の引受保険会社がSBI生命に変更

- ◆ SBI生命において、2021年12月にSBIグループの一員となったSBI新生銀行とグループシナジーを発揮した事例
- ◆ 本件はSBIインシュアランスグループが中期経営計画で掲げている「SBIグループ横断施策の推進」の一環であり、SBI生命は、生命保険事業を通じてSBI新生銀行グループや他のSBIグループ企業とのさらなる協業を一層推進

SBI生命「介護団信」の商品概要

保険期間中に被保険者が傷害や疾病により以下のいずれかに該当した場合、その時点の債務残高相当額が介護保険金として支払われ、住宅ローンの返済に充当されます。

- ・約款所定の要介護状態となり、その状態が180日継続したとき
- ・公的介護保険制度にもとづき「要介護3以上」に該当していると認定されたとき



生成AIを活用した社内の各業務サービスをバージョンアップ。お客さまサービスの充実と社内業務の効率化を推進

コールセンターのオペレーター向けAIセルフボットにGPT-4o(omni)を搭載

- ◆ 2023年7月よりアマゾン ウェブ サービス (AWS) が提供する機械学習を利用したインテリジェント検索サービス「Amazon Kendra」に、GPT-4^{※1}を組み込んだコールセンターのオペレーター向けAIセルフボットを開発し運用を開始
- ◆ 新たにGPT-4o(omni)^{※1}が発表されたことを受け、最新のAIモデルへバージョンアップ
- ◆ 検索結果の要約時間がさらに短縮し、タイムリーなお客さま対応を実現

ITサービスデスクのAIオペレーターに Claude 3 Haikuを搭載

- ◆ 2024年1月よりITサービスデスクの業務において、AWSが提供する「Amazon Bedrock」上でClaude Instant^{※2}を搭載したAIオペレーターによる音声自動案内サービスを開始
- ◆ 新たにClaude 3 Haiku^{※2}が発表されたことを受け、Claude Instantを最新のAIモデルへバージョンアップ
- ◆ スピーディーな自動案内・対応を実現



※1 GPT-4o(omni)とGPT-4 : OpenAI 社が提供するAIモデル
 ※2 Claude 3 Haiku とClaude Instant : 米 Anthropic 社が提供するAIモデル
 ※3 記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。



自動文字起こしと生成AIによる自動要約の機能を搭載したアプリケーション「VOCSS (ボックス)」を自社開発

VOCSSの概要

- ◆ 音声からの自動文字起こし機能と、アマゾン ウェブ サービス (AWS) のAmazon Bedrock で生成AIモデルのClaude 3.5 Sonnet※1による要約機能を搭載し、レポート出力までをワンストップで実行
- ◆ 効率的な自動要約、確認と修正作業ができるため、これまでの人手による作業に比べて大幅な業務効率化を実現



※1 Claude 3.5 Sonnet : 米 Anthropic 社が提供するAIモデル
 ※2 記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

少額短期保険事業のさらなる発展に向けた事業基盤の構築のため、 少額短期保険事業において事業再編を実施

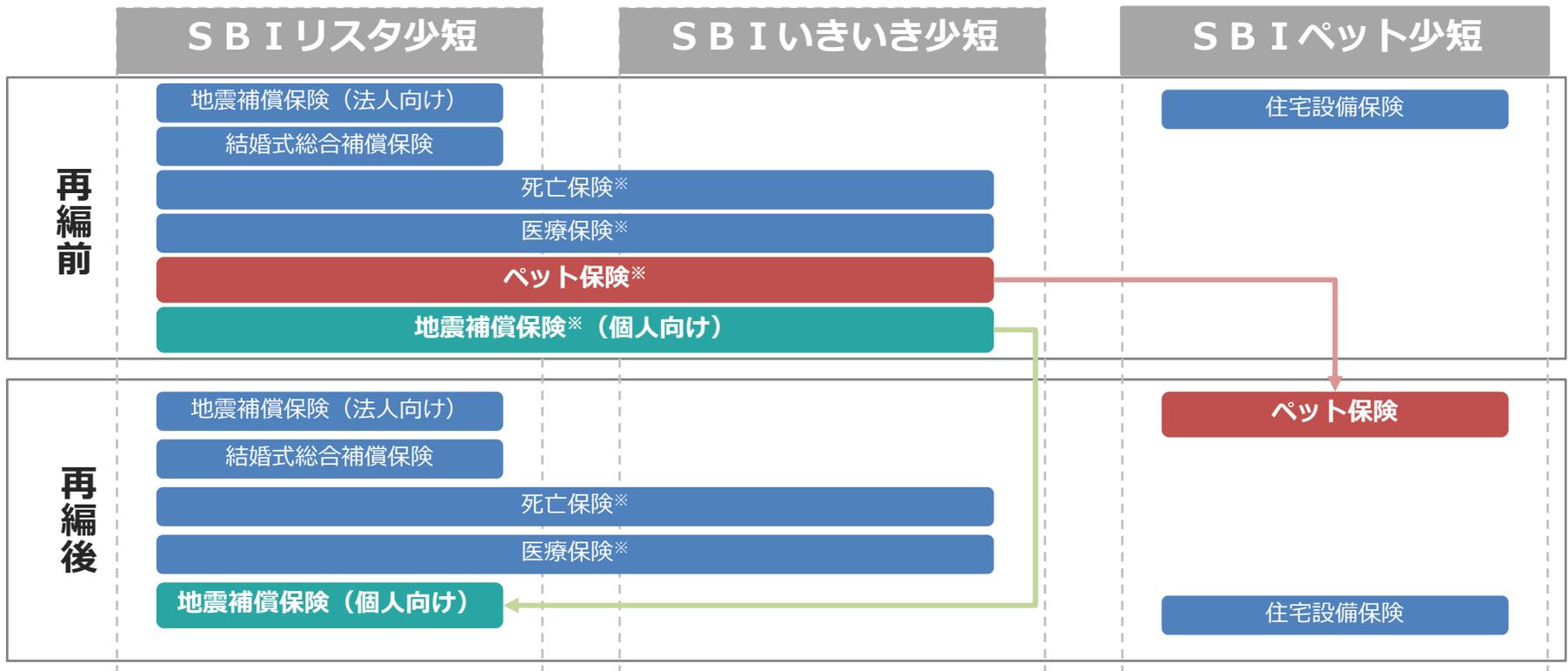
A：ペット保険事業の承継

SBIいきいき少短とSBIリスタ少短が行っていた「ペット保険事業」をSBIペット少短へ承継

B：個人向け地震補償保険事業の承継

SBIいきいき少短が行っていた「地震補償保険事業」をSBIリスタ少短へ承継

(注) 効力発生日はいずれも2025年4月1日予定



※SBIいきいき少短、SBIリスタ少短にて共同保険での引き受け

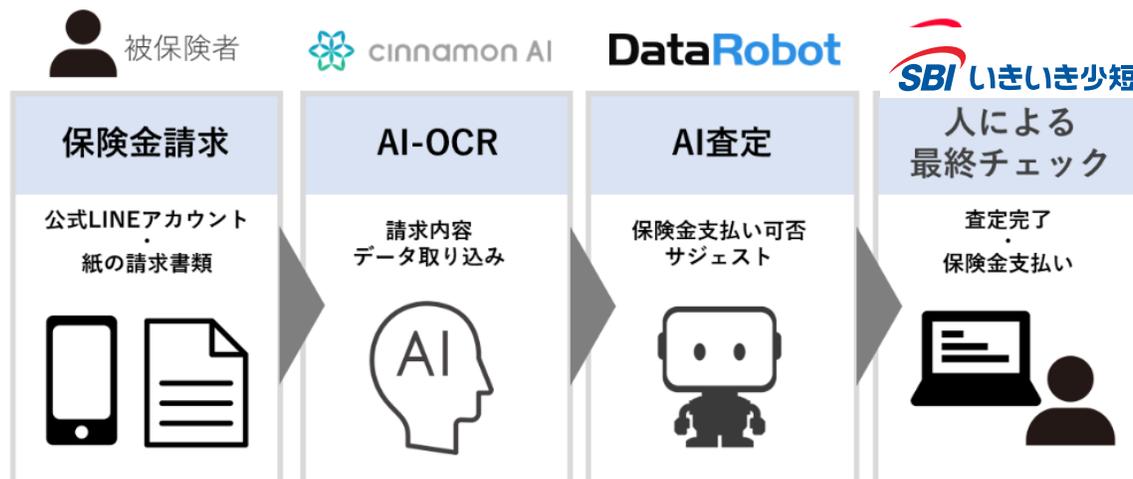


ペット保険の保険金支払査定にAIを導入し、 保険金支払いの自動査定を開始 (2024年6月公表)

- ◆ 昨年より取り組んでいる、AIを活用した保険の引受査定に続くDX推進の第2弾
- ◆ 導入前と比較して、担当者1人当たりの処理件数は約2.3倍、1件当たりの処理時間を約60%削減するなど、業務効率化に大きく貢献

※本取組みは、Data Robot,Inc. (Data Robot社) および株式会社シナモン (シナモンAI社) との協業により実現しています。

<AIを活用した保険金支払自動査定フロー (イメージ) >





市場の拡大が続くe-bike^{※1}向けの車両保険 「みんなのe-bike保険」の取り扱いを開始 (2024年10月公表)

- ◆ 欧米を中心にe-bike市場の拡大が続いており、国内への輸入も増加
- ◆ 排ガス規制の強化により、原付一種^{※2}の生産が2025年に終了する影響などもあり、今後、e-bikeを含む電動アシスト自転車の需要が国内で増加することを見込む



※1 スポーツバイクに電動アシストユニットを搭載した電動アシスト自転車
 ※2 排気量50cc以下の原動機付自転車

ご清聴 ありがとうございます。

SBI Insurance Group

最新のテクノロジーで保険をもっと便利でリーズナブルに

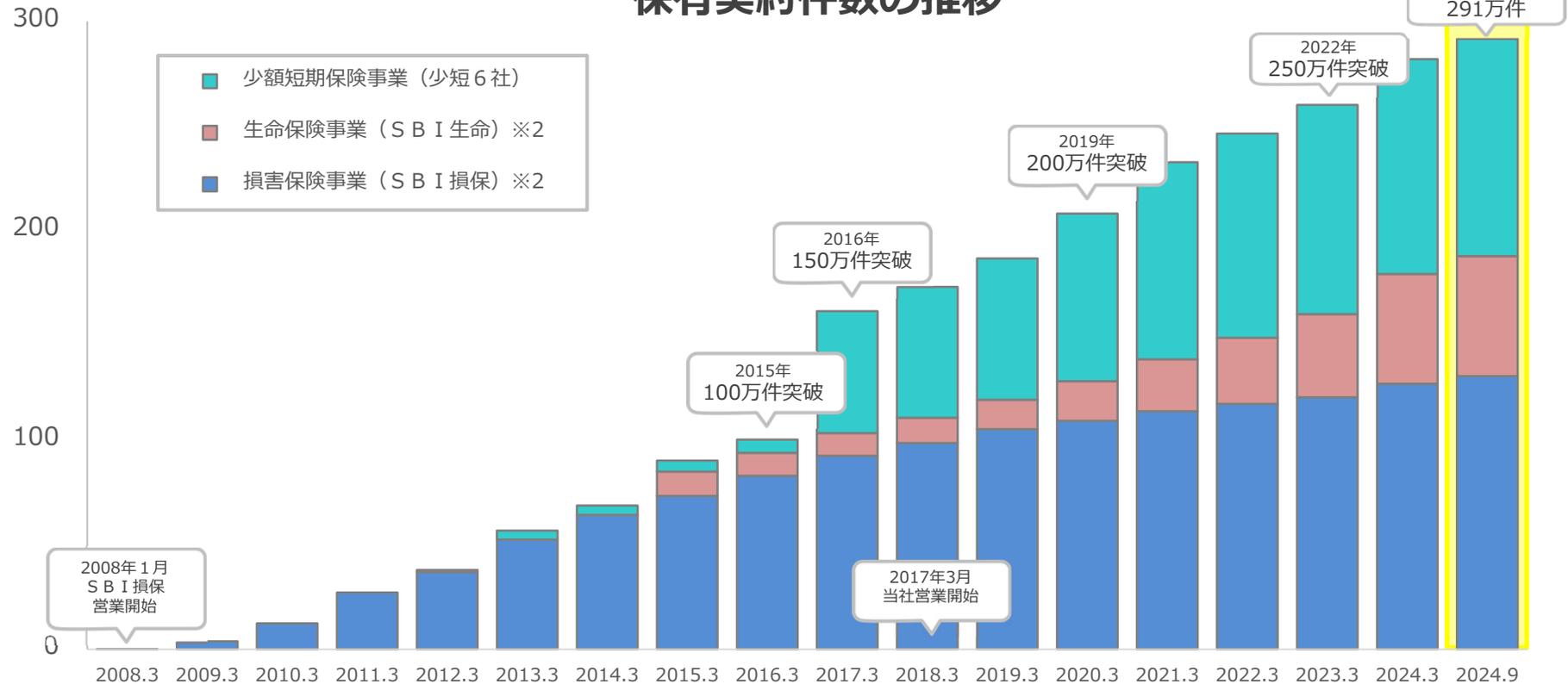
参 考 资 料





事業規模を飛躍的に拡大。
2024年9月末における当社グループの
保有契約件数合計は 291万件^{※1}

(単位：万件)

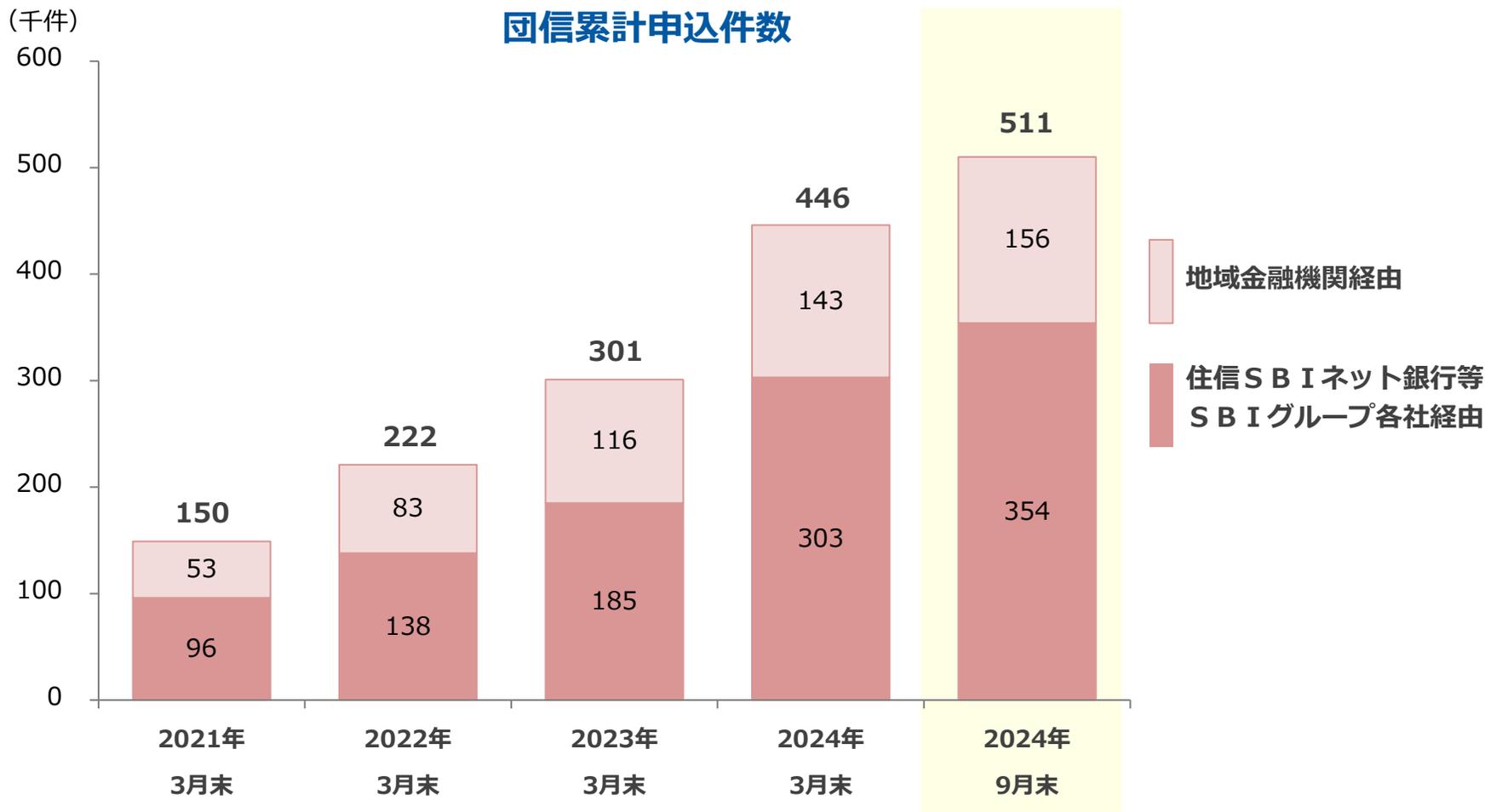


※1 当社はSBIグループの保険事業を統括する保険持株会社として2017年3月に営業を開始いたしましたが、当社の各子会社は当社の営業開始前から営業活動を行っているため、上記グラフでは、各子会社のSBIグループ加入後（当社の親会社であるSBIホールディングス株式会社の子会社となって以後）の保有契約件数を表示しています。

※2 損害保険事業の保有件数には2022年6月よりSBI損保の団体ががん保険の被保険者数を、生命保険事業の保有契約件数には、SBI生命の団体信用生命保険の被保険者数を含めています。



住信SBIネット銀行に加え、
地域金融機関での団信販売も好調に推移



※2024年3月末以降の数値には、SBI新生銀行株式会社およびSBIアルヒ株式会社の実績が含まれています。



全国の金融機関との提携交渉を推進。
2024年9月末時点で、**合計105機関**で
S B I 生命の団信の販売が開始・決定済み

◆ S B I 生命の団信は、地域金融機関等による
住宅ローン事業の収益性向上に貢献できる商品

<提携金融機関等>

アルプス中央信用金庫
飯田信用金庫
池田泉州銀行
上田信用金庫
沖縄銀行
かながわ信用金庫
川崎信用金庫
北九州銀行
北日本銀行
協栄信用組合
島根銀行
諏訪信用金庫
西武信用金庫
仙台銀行

東濃信用金庫
豊田信用金庫
長野信用金庫
浜松いわた信用金庫
飯能信用金庫
福島銀行
松本信用金庫
もみじ銀行
山口銀行

その他の提携先金融機関さま（※五十音順）

<S B Iグループ各社>
住信S B Iネット銀行
S B I新生銀行
S B Iアルヒ

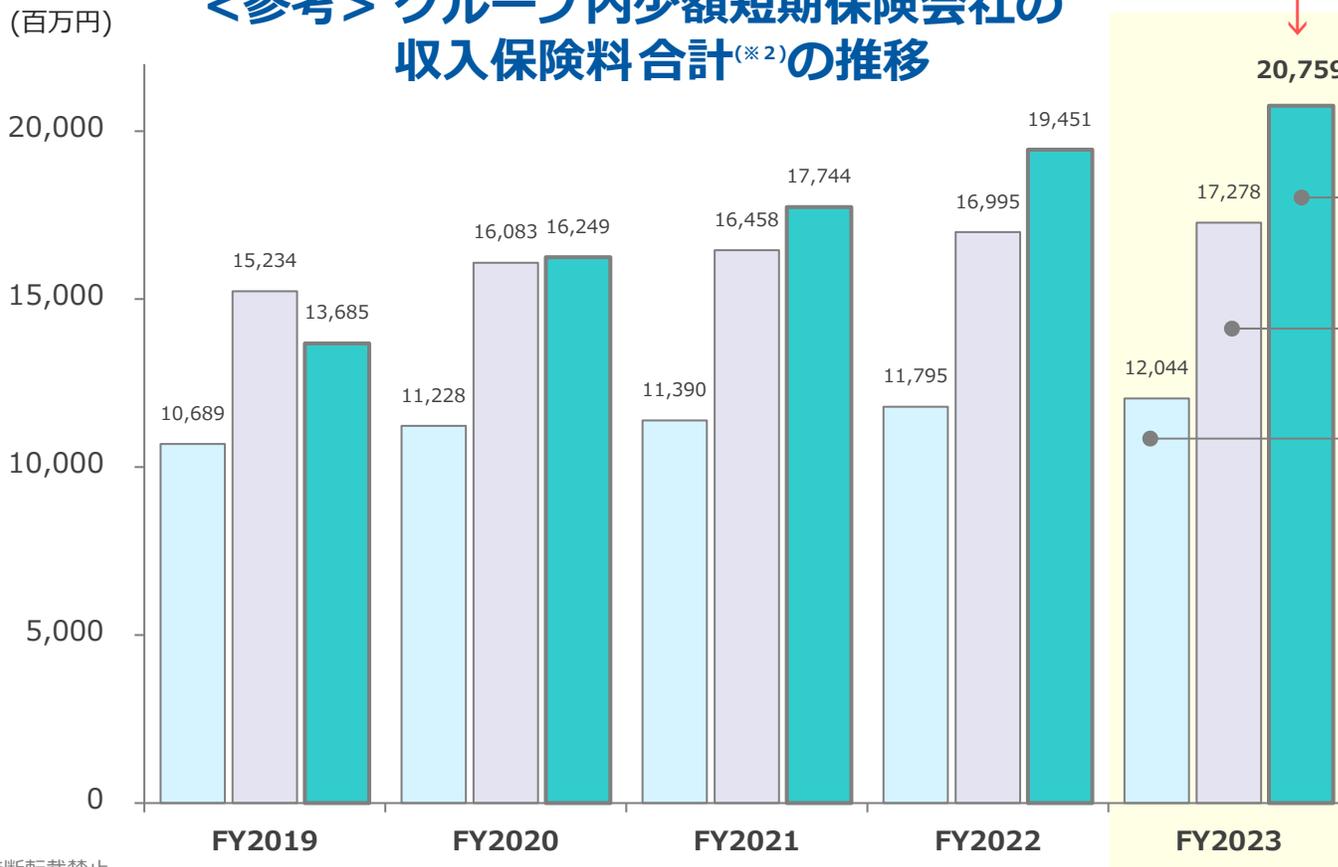




拡大が続く少額短期保険業界において、
当社グループは **収入保険料 業界No.1** (※1)



<参考> グループ内少額短期保険会社の
収入保険料合計 (※2) の推移



グループ	構成会社
当社グループ	SBIいきいき少短 SBI日本少短 SBIリスタ少短 SBIプリズム少短 SBI常口セーフティ少短 SBIベット少短
全管協グループ	全管協少短 エタニティ少短 ネットライフ火災少短
東京海上グループ	東京海上ミレア少短 東京海上ウエスト少短

※1 当社調べ

※2 各企業グループの「収入保険料合計」は事業年度末の時点で企業グループを構成している各少額短期保険会社を対象にその事業年度の1年間の収入保険料を単純合計しています。

<https://www.sbiig.co.jp>

 **SBI** Insurance Group

SBIインシュアランスグループ株式会社

証券コード：7326